

平成29年度

大学まちづくり地域政策形成事業調査研究委託

酒田市における女性活躍推進のための基礎調査研究

報告書

東北公益文科大学

【執筆者】

伊藤 眞知子 （東北公益文科大学 教授）

目次

I	本研究の目的と意義	1
1	問題設定と目的	1
2	研究方法	1
3	本研究の意義	1
II	調査概要	2
1	実施概要	2
2	調査票の作成および集計・分析	3
III	調査結果	5
1	回答者の属性	5
2	健康状態、生活満足度	10
3	職業生活の実態と意識	12
4	結婚や家族に関する実態と意識	22
5	女性活躍に関する意識・意向	28
IV	考察と提言	34
	<参考文献・資料>	37
	<資料>	39
	【資料1】「女性の暮らしと働き方に関するアンケート調査」調査票	
	【資料2】単純集計表	
	【資料3】自由記述一覧	

I 本研究の目的と意義

1 問題設定と目的

「女性活躍推進」は、第二次安倍政権の「成長戦略」の一環に位置づけられ、平成 27（2015）年に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）が成立・施行された。この法律は、自らの意思によって職業生活を営み、または営もうとする女性の個性と能力が十分に発揮されることが一層重要であるとして、女性の職業生活における活躍の推進について、次のように規定している。第一に、地方自治体および民間事業主（301人以上）に、女性の活躍に関する状況（①女性採用比率、②勤続年数男女比、③労働時間の状況、④女性管理職比率）を把握・分析し「事業主行動計画」を策定・公表することを義務づけている。第二に、地方自治体の当該地域における「推進計画」の策定を求めている（努力義務）。第三に、地域において、女性活躍推進に係る取組に関する協議を行う「協議会」を組織することができる（任意）。

酒田市は、平成 29（2017）年度に酒田市の「推進計画」を策定し、女性が働きやすく、昇進等への意欲をもっていきいきと働き、生活できる地域や職場環境の整備を進めることとした。庄内地方は若年人口の進学・就職等による地域外への流失が多く、とくに酒田市では若年女性人口の減少が目立っている。若年女性の定住（・回帰）促進という観点においても、女性が働きやすく、活躍できる環境整備が必要になっていると考えられる。

「推進計画」策定のためには、酒田市に在住する女性たち、とりわけ若年女性の現状および意識の把握が欠かせない。そこで本研究は、酒田市において女性活躍「推進計画」を策定し、推進施策・事業を展開するための基礎的データの収集を目的として、若年女性を対象とする量的調査（質問紙調査）を実施し、ジェンダー研究の視点から分析することとした。

2 研究方法

酒田市在住の 20 歳～39 歳の女性のうち 900 人を対象とする質問紙調査を実施した。調査項目は、女性の職業生活の実態と意識、結婚や家族に関する実態と意識、性別役割分担の実態と意識、女性活躍に関する意識、女性活躍に関する意識・意向等であり、構造化された質問紙（調査票）を作成、郵送法（配布・回収とも）により実査を行った。

集計・解析は、統計ソフト（SPSS）を使用して、単純集計、クロス集計等を行うとともに、自由記述一覧を作成し、これらの調査結果をもとに考察・分析を行った。

3 本研究の意義

本研究は、女性活躍推進という地元自治体の喫緊の課題に対して、課題解決のための

政策形成・立案に資する基礎的データを提供することができる。対象を若年女性に限定するといった調査は、行政では実施することが難しく、地元の大学が専門性を活かして実施し研究するところに意義がある。若年女性が現在の働き方や暮らしについて、どのように考え、地元で居住・就業を継続するために何を望んでいるのか、ジェンダー研究の立場から分析することにより、酒田市の「女性活躍推進」施策・事業の展開にむけて提言を行う。

II 調査の概要

1 実施概要

(1) 調査の目的

酒田市在住の女性が働きやすく、昇進等への意欲をもっていきいきと働き、生活できる地域や職場環境を整備し、女性活躍を推進する施策・事業展開にむけた基礎的データの収集を目的とする。

(2) 調査主体

調査主体：酒田市

実施主体：東北公益文科大学 伊藤真知子研究室

(3) 調査関連期間

調査票の検討：平成 29（2017）年 8 月～9 月

調査実施期間：平成 29（2017）年 9 月 9 日～9 月 25 日

(4) 調査方法：郵送法（配布・回収とも）

(5) 母集団と調査対象者、対象者のサンプリング方法：

[母集団]平成 29（2017）年 9 月 1 日現在で酒田市在住の年齢 20～39 歳の女性

[対象者]900 名

[サンプリング方法]住民基本台帳からの 2 段無作為抽出法

(6) 配票数・回収数・回収率

[配票数] 酒田市全域で、900 票（住所不明での返送 1 票）

[回収数] 307 票＝有効 307 票

[有効回収率] 34.1%（307 票／899 票）

(7) 調査項目

① 回答者の属性

ア 年齢 イ 学歴 ウ 酒田での居住歴 エ 住居形態 オ 年収 カ 職業
キ 仕事内容 ク 結婚

② 健康状態、生活満足度

ア 健康状態 イ 生活満足度

③ 職業生活の実態と意識

ア 職場の特徴 イ 就業時間 ウ 昇進希望 エ 離職経験 オ 将来のキャリア
カ 働くことに対する自信・不安 キ 職場における男女の地位 ク 女性が職業を
もつことについての考え

④ 結婚、家族に関する実態と意識

ア パートナーとの関係 イ 結婚希望 ウ 交際相手(婚約者)の有無 エ 家族
の人数 オ 同居家族 カ 子どもの人数 キ 子どもの年齢 ク 家事・育児分担
ケ 主たる家事・育児担当 コ 子ども希望

⑤ 女性活躍等に関する意識・意向

ア 性別役割分業・結婚・離婚・自己認識・地域 イ 女性リーダー増の影響
ウ 女性リーダー増への障害 エ 女性就労への企業・行政の支援 オ 女性活躍
に必要な情報 カ 男性の家事・育児参加に必要なこと キ 自由記述

2 調査票の作成および集計・分析

(1) 調査票の作成

調査票の作成は、上述の調査項目の5つの柱立てを行い、それぞれの調査項目を設定した。調査票は、巻末【資料2】に掲載している。

調査項目は、酒田市が実施した「男女がともに暮らしやすいまちづくり市民アンケート」(2013)ならびに「地方創生に関するアンケート調査」(2015)をふまえて検討し、設定した。

調査項目の設定にあたっては、以下の文献・資料等を参照し、参考とした。

まず、健康状態・生活満足度の設問設定においては、日本家族社会学会「第3回家族についての全国調査(NFRJ08)」(2009、稲葉ほか編(2016))を参考にした。

職業生活の実態と意識については、内閣府男女共同参画局が実施した「キャリア形成と仕事と家庭の両立に関する意識調査」(2001)、「女性のライフプランニング支援に関する調査」(2006)、「ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査」(2013)、「女性の活躍推進に関する世論調査」(2014)、「地域における女性の活躍に関する意識調査」(2015)、「男女共同参画に関する世論調査」(2016)、大阪府商工労働部「女性の就業意識に関するアンケート調査」(2014)、鳥取県「女性活躍加速化アンケート調査」(2014)を参照した。

また、結婚、家族に関する実態と意識については、上述の日本家族社会学会（2009）に加えて、独立行政法人労働政策研究・研修機構「女性の働き方と家庭生活に関する調査」（2011）を参照した。

さらに、女性活躍等に関する意識・意向についての調査項目は、内閣府男女共同参画局「男女の働き方と仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する調査」（2006）を参照、設定した。

（2）集計・分析

集計・解析は、統計ソフト（SPSS）を使用して、単純集計、クロス集計を行うとともに、自由記述一覧を作成し、これらの調査結果をもとに考察・分析を行った。

単純集計結果は、巻末【資料 1】に掲載している。

クロス集計を各項目間に関連があるかどうかを分析するために実施した。Ⅲ 調査結果では、統計的に有意と認められたもの（ χ （カイ）二乗検定 1%水準で有意、ならびに同 5%水準で有意）を中心に、棒グラフあるいは表を用いて記載し、分析している。

Ⅲ 調査結果

1 回答者の属性 (n=307)

(1) 年齢 (Q01)

回答者の年齢構成は、20～24歳 15.0%、25～29歳 19.2% (以上、20代が 34.2%)、30～34歳 30.3%、35～39歳 35.2%、40歳以上 0.7%、DK/NA*0.3%である (図 1-1)。

*DK/NA は、無回答および無効回答を示す。

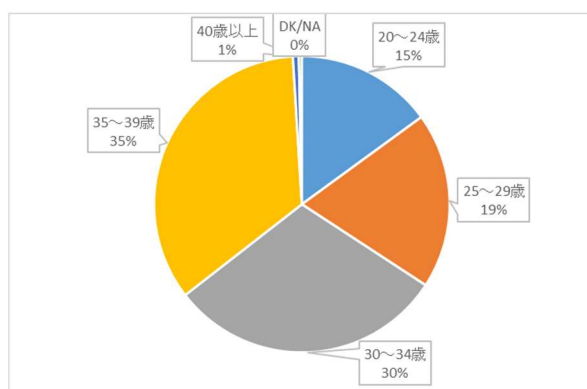


図 1-1 回答者の年齢 n=307

(2) 学歴 (Q02)

回答者の学歴は、中学校・高等学校 31.9%、高専・短大・専修学校 37.8%、大学・大学院 30.8%となっている (図 1-2)。

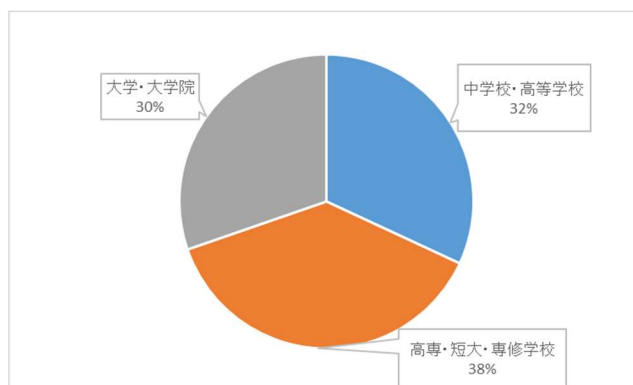
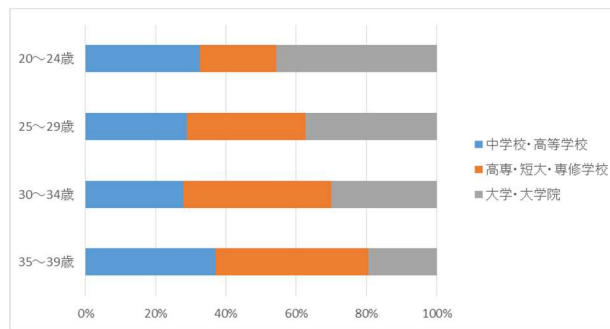


図 1-2 回答者の学歴 n=307

年齢別に学歴をみると、図 1-3 のとおりである。



カイ二乗検定 5%水準で有意

図 1-3 回答者の学歴(年齢別) n=306

(3) 居住歴 (Q03)

酒田市での居住歴をたずねたところ、酒田市出身でずっと酒田に居住 22.5%、酒田市出身で転出経験あり 43.6% (進学のため 35.8%、就職のため 4.9%、転職・転勤のため 2.9%)、酒田市以外の出身で転入 30.3% (進学のため 1.3%、就職・転職・転勤 6.5%、結婚または配偶者の転職・転勤 22.5%)、その他 3.6%であった (図 1-4)。転出経験者のうち 8 割強が進学のための転出であり、転入者のうち 7 割強が結婚または配偶者の転職・転勤による転入となっている。

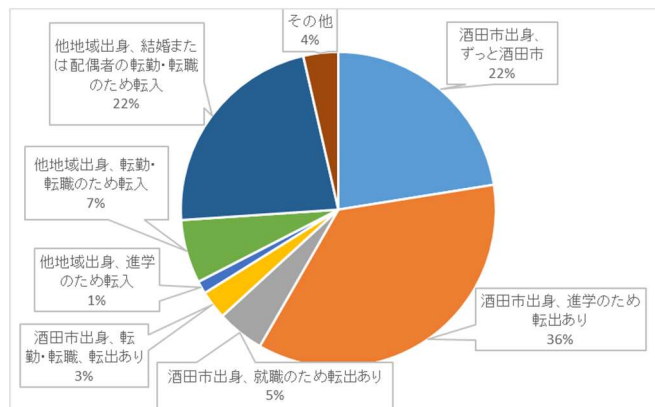


図 1-4 酒田市での居住歴 n=307

(4) 住居形態 (Q04)

現在の住まいは、持ち家 (一戸建て) 70.4%、持ち家 (集合住宅) 0.7%、民間借家・アパート 23.5%、公営住宅・社宅 3.9%、その他 0.7%、DK/NA 1.0%となっている。

(5) 年収 (Q05)

本人の年収 (過去 1 年間、税込み、臨時収入・副収入含む) は、なし 11.7%、100 万円未満 15.1%、100~200 万円未満 30.9% (以上、200 万円未満 57.7%)、200~300 万円未満 25.5% (以上、300 万円未満 83.2%)、300~400 万円未満 11.4%、400~600 万円未満 5.0%、600~800 万円未満 0.3%、800 万円以上 0%、DK/NA 2.9%である。

年齢別にみると（図 1-5）、年齢が上がるほど収入が高い傾向にある。ただし、30～34歳は、後述するように主婦（無職）の割合が高いため、100万円未満が比較的高い割合になっているとみられる。

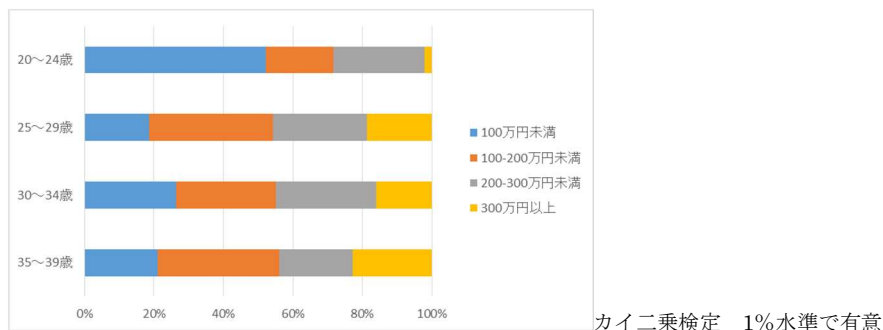


図 1-5 年収〈年齢別〉 n=297

職業別に年収をみると（図 1-6）、有業者のなかでも正社員・正職員とそれ以外（非正社員・非正職員・自営業・その他）では、明らかに差がみられる。

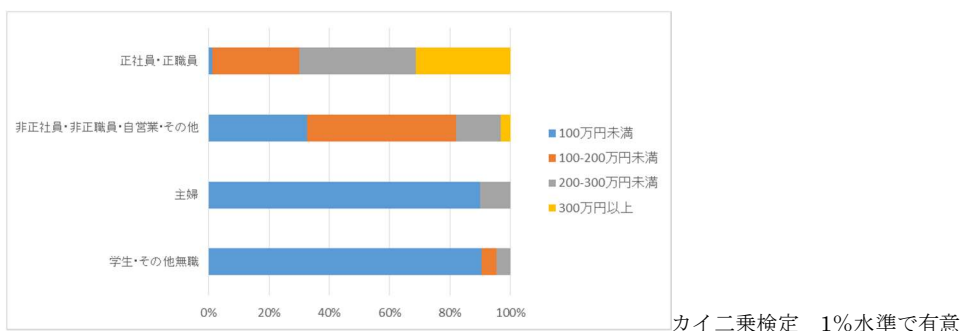


図 1-6 年収〈職業別〉 n=298

(6) 職業 〈Q06〉

全員に現在の仕事の状況をたずねたところ、正社員・正職員 49.5%、非正社員・非正職員 27.7%、会社・団体の役員 0%、自営業 4.9%（以上、有業 82.1%）、主婦 10.1%、学生 4.2%、無業その他 2.6%、DK/NA 0.7%という結果である（図 1-7）。

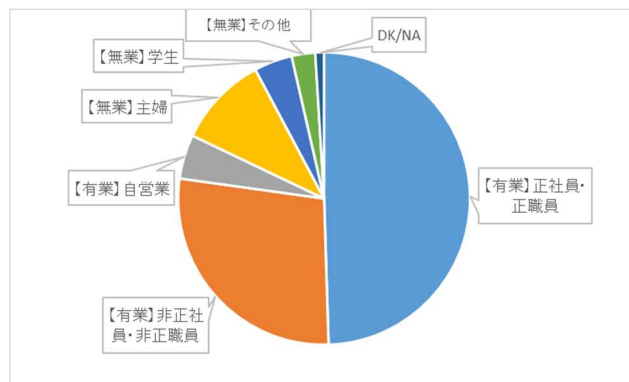
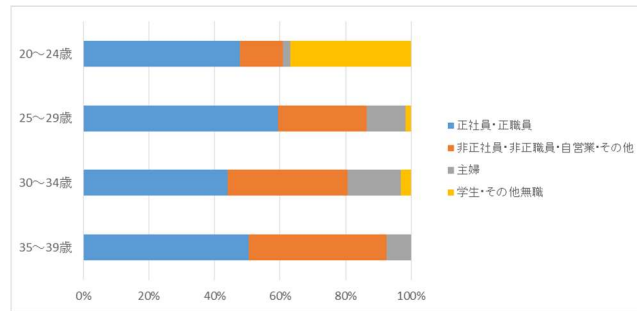


図 1-7 職業 n=307

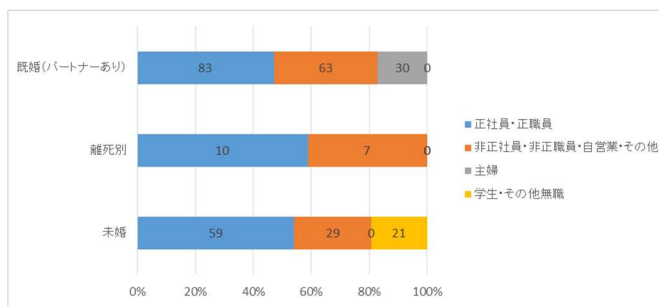
年齢別にみると（図 1-8）、有業割合は 20～24 歳 60.9%、25～29 歳 86.4%、30～34 歳 80.7%、35～39 歳 92.4%と、年齢が上がるほど高い傾向にあるといえるが、30～34 歳では正社員・正職員が少なく、主婦の割合が他の年代より高くなっている。



カイ二乗検定 1%水準で有意

図 1-8 職業<年齢別> n=303

結婚の有無別にみると、図 1-9 のとおりである。



カイ二乗検定 1%水準で有意

図 1-9 職業<結婚の有無別> n=302

表 1-1 職業<居住歴・結婚の有無別> n=275

		正社員・正職員	非正社員・非正職員・自営業・その他	主婦	学生・その他の無職	合計
酒田市出身、ずっと酒田	結婚している(パートナーがいる)	14 41.2%	16 47.1%	4 11.8%	0 0.0%	34 100.0%
	未婚	20 66.7%	6 20.0%	0 0.0%	4 13.3%	30 100.0%
酒田市出身、転出経験あり	結婚している(パートナーがいる)	36 58.1%	18 29.0%	8 12.9%	0 0.0%	62 100.0%
	未婚	26 43.3%	20 33.3%	0 0.0%	14 23.3%	60 100.0%
酒田市以外から転入	結婚している(パートナーがいる)	30 39.5%	28 36.8%	18 23.7%	0 0.0%	76 100.0%
	未婚	10 76.9%	1 7.7%	0 0.0%	2 15.4%	13 100.0%
合計	結婚している(パートナーがいる)	80 46.5%	62 36.0%	30 17.4%	0 0.0%	172 100.0%
	未婚	56 54.4%	27 26.2%	0 0.0%	20 19.4%	103 100.0%
		136 49.5%	89 32.4%	30 10.9%	20 7.3%	275 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

(7) 仕事内容〈Q06-1〉

有業者に仕事内容をたずねたところ（図 10）、教師・保育士・看護師 13.8%、専門・技術職 14.6%（以上、専門的職業 28.4%）、事務・営業職 28.5%、販売・サービス・保安職 29.6%、農林漁業職 2.4%、生産・輸送・建設・労務職 8.7%、その他 2.0%、DK/NA 0.4%となっている。

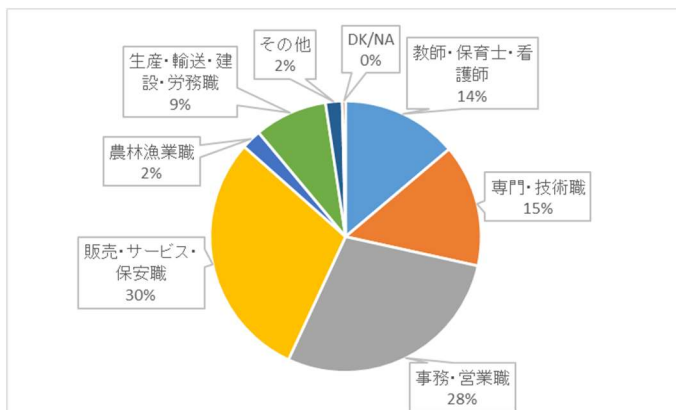
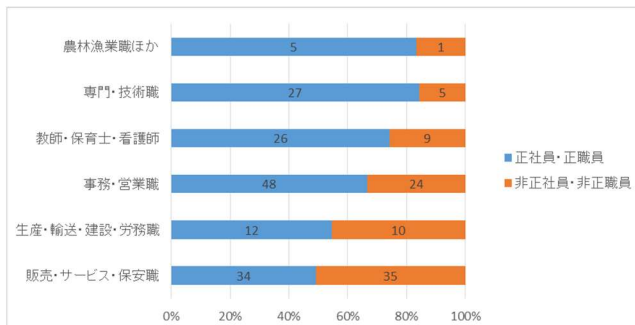


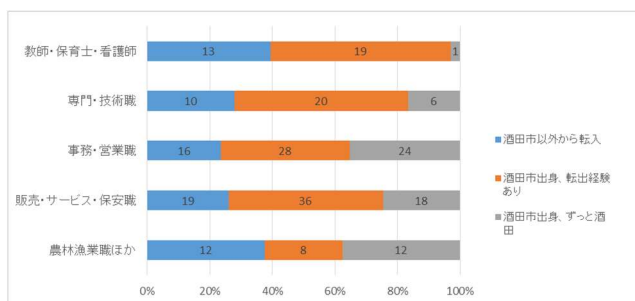
図 1-10 仕事内容 n=253

正規・非正規別にみると、図 1-11 のとおりであり、また、居住歴別では、図 1-12 のとおりとなっている。



カイ二乗検定 1%水準で有意

図 1-11 仕事内容〈正規・非正規別〉n=236



カイ二乗検定 1%水準で有意

図 1-12 仕事内容〈居住歴別〉n=242

(8) 結婚の有無〈Q12〉

結婚しているか全員にたずねたところ（図 1-13）、結婚している 55.7%、結婚していないがパートナーがいる 2.3%、離別 5.5%、死別 0.3%、未婚 35.5%、DK/NA0.7%となっている。

年齢別にみると（図 1-14）、年齢が上がるほど、結婚している（パートナーがいる）割合は高くなっている。

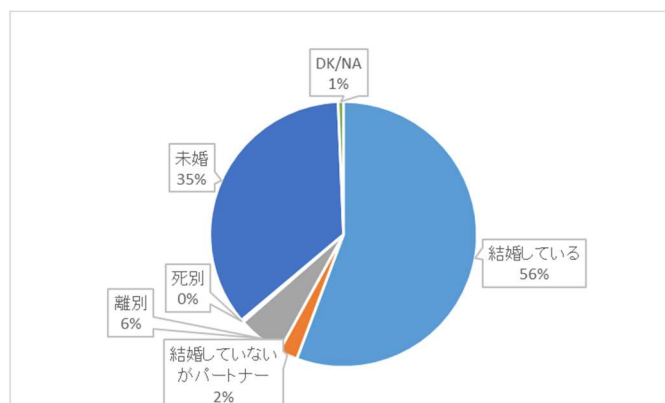
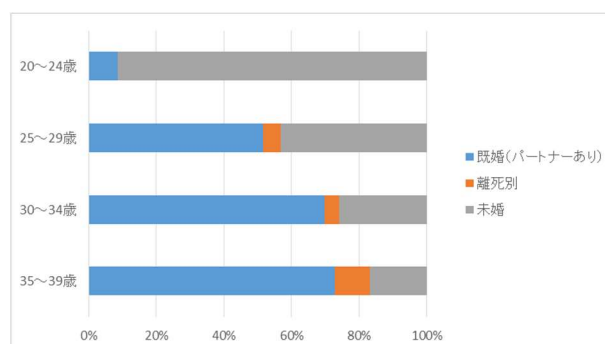


図 1-13 結婚の有無 n=307



カイ二乗検定 0%水準で有意

図 1-14 結婚〈年齢別〉 n=304

2 健康状態、生活満足度

(1) 健康状態〈Q17〉

全員に健康状態をたずねたところ、たいへん良好 11.7%、良好 58.0%（以上、良好 69.7%）、どちらともいえない 15.0%、やや悪い 11.1%、たいへん悪い 3.9%、DK/NA0.3%であった。

年齢別にみると（図 2-1）、年齢が上がるほど良好という回答が少ない傾向がみられる。

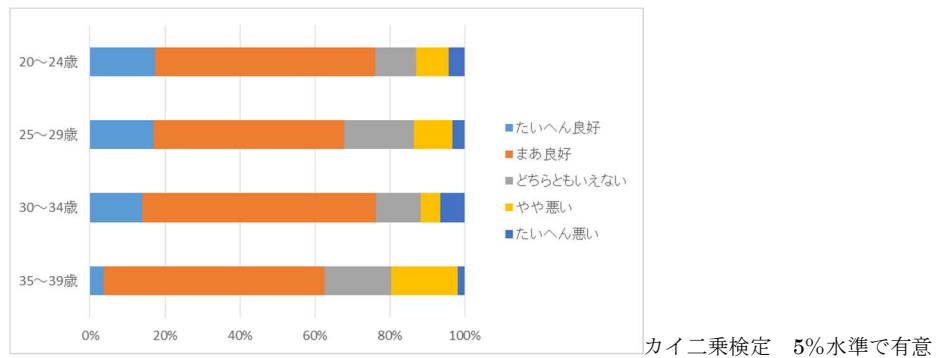


図 2-1 健康状態〈年齢別〉 n=305

(2)生活満足度〈Q18〉

生活満足度は、全体では、かなり満足 9.4%、どちらかといえば満足 62.5% (以上、「満足」71.9%)、どちらかといえば不満 21.5%、かなり不満 5.5% (以上、「不満」27.0%)、DK/NA1.0%であった。

健康状態別にみると (図 2-2)、「満足」という回答は、健康状態が「良好」(たいへん良好+まあ良好) な人では 85.0%、「どちらともいえない」人では 54.3%、「悪い」(やや悪い+たいへん悪い) という人では 33.3%であり、健康状態により生活満足度に差がみられる。

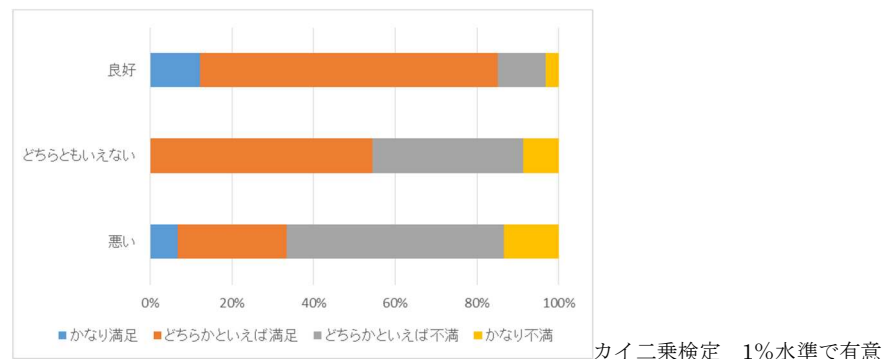


図 2-2 生活満足度〈健康状態別〉 n=304

有業者における正規・非正規別では (図 2-3)、「満足」(かなり満足+どちらかといえば満足) と回答した割合が、正社員・正規職員 79.5%に対して、非正社員・非正職員は 56.5%で、正規職が非正規職より生活満足度の高い傾向がみられる。

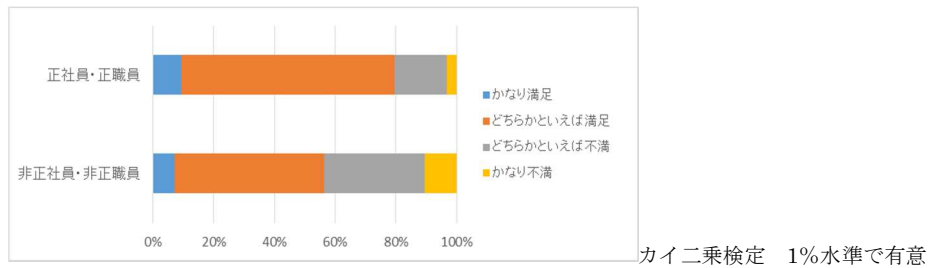


図 2-3 生活満足度(正規・非正規別) n=236

有業者の仕事内容別にみると(図 2-4)、「満足」という回答は、専門・技術職 89.2%、教師・保育士・看護師 80.0%、事務・営業職 73.2%、販売・サービス・保安職 65.3%、生産・輸送・建設・労務職 63.6%、農林漁業職ほか 30.3%という順であった。

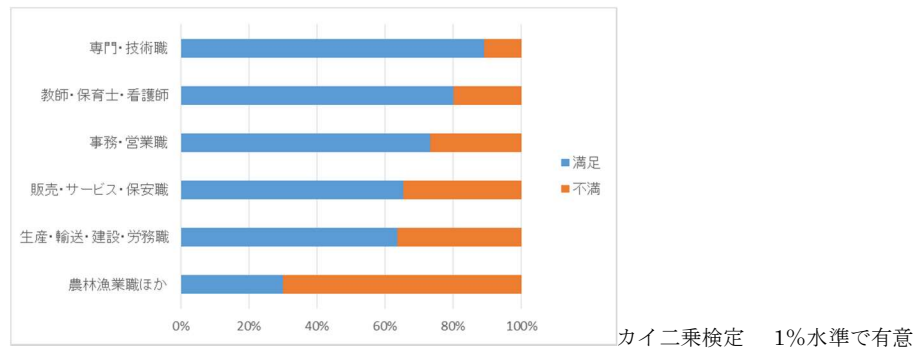


図 2-4 生活満足度(仕事内容別) n=250

3 職業生活の実態と意識

(1) 職場の特徴 (Q06-2)

有業者に職場の特徴にあてはまるものについて、複数回答で答えてもらったところ、表 3-1 のとおりであった。割合の高い順に並べている。上位 3 項目について、詳しくみていこう。

表 3-1 職場の特徴(複数回答) n=253

選択肢	実数	%
仕事と子育てを両立しながら働き続ける先輩が多くいる	129	51.0
育児休業制度等子育てとの両立支援の制度が活用できる雰囲気がある	116	46.2
女性の先輩や管理職が多くいる	99	39.1
従業員の個人的な生活時間の確保に配慮する雰囲気がある	94	35.6
男女の区別なく昇進・昇格できる雰囲気がある	90	37.2
残業・休日出勤が少ない	85	31.6
自分にとってやりがいがあると思える仕事をする事ができる	80	33.6
仕事の負担が重い	76	30.0
恒常的に残業・休日出勤が多い	60	23.7
教育・訓練機会が少ない	35	13.8
女性が働くことへの上司や同僚の男性の認識・理解が不十分である	24	9.5
男女で受け持つ仕事内容がはっきり分かれている	23	9.1
どれにもあてはまらない	10	4.0
フレックスタイム制度や在宅勤務制度など柔軟に働ける環境がある	9	3.6

もっとも多数の回答があった「仕事と子育てを両立しながら働き続ける先輩が多い」を昇進希望別（表 3-2）にみると、「昇進したい」64.8%、「昇進したくない他」（昇進したくない+現在の職場で昇進は難しい+昇進制度や昇進ポストがない+わからない）40.8%と差がみられた。

表 3-2 仕事と子育てを両立する先輩多い（昇進希望別） n=242

		職場：両立先輩多い		合計
		回答無	回答有	
昇進した いか	昇進したい	43 35.2%	79 64.8%	122 100.0%
	昇進したくない他	71 59.2%	49 40.8%	120 100.0%
合計		114 47.1%	128 52.9%	242 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

次に多数の回答があった「育児休業制度等子育てとの両立支援の制度が活用できる雰囲気がある」を居住歴別（表 3-3）、年収別（表 3-4）、職業別（表 3-5）、雇用形態別（表 3-6）、生活満足度別（表 3-7）でみると、以下のように差がみられた。

表 3-3 育児休業制度等活用の雰囲気がある（居住歴別） n=236

		職場：両立支援制度		合計
		回答無	回答有	
年収	100万円未満	21 67.7%	10 32.3%	31 100.0%
	100-200万円未満	60 66.7%	30 33.3%	90 100.0%
	200-300万円未満	30 42.9%	40 57.1%	70 100.0%
	300万円以上	14 28.0%	36 72.0%	50 100.0%
合計		125 51.9%	116 48.1%	241 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 3-4 育児休業制度等活用の雰囲気がある（年収別） n=241

		職場：両立支援制度		合計
		回答無	回答有	
職業	正社員・正職員	59 39.6%	90 60.4%	149 100.0%
	非正社員・非正職員・自営業・その他	69 71.9%	27 28.1%	96 100.0%
合計		128 52.2%	117 47.8%	245 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 3-5 育児休業制度等活用の雰囲気がある〈職業別〉 n=245

		職場：両立支援制度		合計
		回答無	回答有	
正規・非正規	正社員・正職員	59 39.6%	90 60.4%	149 100.0%
	非正社員・非正職員	56 67.5%	27 32.5%	83 100.0%
合計		115 49.6%	117 50.4%	232 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 3-6 育児休業制度等活用の雰囲気がある〈生活満足度別〉 n=245

		職場：両立支援制度		合計
		回答無	回答有	
居住歴	酒田市出身、ずっと酒田	39 65.0%	21 35.0%	60 100.0%
	酒田市出身、転出経験あり	62 57.4%	46 42.6%	108 100.0%
	酒田市以外から転入	24 35.3%	44 64.7%	68 100.0%
合計		125 53.0%	111 47.0%	236 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 3-7 仕事と子育てを両立する先輩多い〈正規・非正規別〉 n=232

		職場：両立支援制度		合計
		回答無	回答有	
生活満足	満足	81 46.6%	93 53.4%	174 100.0%
	不満	48 67.6%	23 32.4%	71 100.0%
合計		129 52.7%	116 47.3%	245 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

3 番目に多数の回答があった〈女性の先輩や管理職が多い〉を仕事内容別（表 3-8）にみると、教師・保育士・看護師が 70.6%であり、回答割合が高い傾向がみられた。

表 3-8 女性の先輩や管理職が多い〈仕事内容別〉 n=246

		職場：女性管理職多い		合計	
		回答無	回答有		
仕事内容	教師・保育士・看護師	10 29.4%	24 70.6%	34 100.0%	
	専門・技術職	24 66.7%	12 33.3%	36 100.0%	
	事務・営業職	45 63.4%	26 36.6%	71 100.0%	
	販売・サービス・保安職	45 60.8%	29 39.2%	74 100.0%	
	農林漁業職	4 80.0%	1 20.0%	5 100.0%	
	生産・輸送・建設・労務職	16 76.2%	5 23.8%	21 100.0%	
	その他	3 60.0%	2 40.0%	5 100.0%	
	合計		147 59.8%	99 40.2%	246 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

(2) 就業時間〈Q06-3〉

有業者の1日の就業時間（通勤時間、休憩時間、残業時間を含む）については、0～2時間未満 0.4%、2～4時間未満 1.6%、4～6時間未満 8.3%、6～8時間未満 14.2%、8～10時間未満 49.6%、10～12時間未満 17.4%、12時間以上 4.0%、その他（育休中3人含む） 2.0%、DK/NA 2.4%という回答であった。

正規・非正規別にみると、正規職の就労時間のほうが長い傾向がみられた（カイニ乗検定 1%水準で有意）。

(3) 昇進希望〈Q06-4〉

有業者に現在の職場での昇進希望をたずねたところ、昇進したい 18.2%、昇進したくない 30.0%、現在の職場で昇進することは難しい 16.6%、昇進制度や昇進できるポストがない 11.5%、わからない 20.2%、DK/NA 3.6%となっている。

これらの回答を「昇進したい」「昇進したくない・その他」に分けてみると、年収別で表 3-9 のとおり違いが見られた。

表 3-9 昇進したいか〈年収別〉 n=240

		昇進したいか		合計
		昇進したい	昇進したくない・その他	
年収	100万円未満	14 45.2%	17 54.8%	31 100.0%
	100-200万円未満	37 41.1%	53 58.9%	90 100.0%
	200-300万円未満	36 52.2%	33 47.8%	69 100.0%
	300万円以上	34 68.0%	16 32.0%	50 100.0%
合計		121 50.4%	119 49.6%	240 100.0%

カイニ乗検定 5%水準で有意

(4) 離職経験〈Q07〉

全員に離職した経験（学生アルバイトは除く）について複数回答を求めたところ、①結婚のため 17.9%、②出産・育児のため 21.2%、③介護・看護のため 0.7%、④転職・起業のため 26.7%、⑤離職したことはない 39.4%、⑥その他 9.4%という結果であった。

もっとも多数であった「離職したことはない」という回答は、年齢別（表 3-10）、職業別（表 3-11）および正規・非正規別（表 3-12）で次のとおり違いがみられた（比較的強い関連）。なお、年収別、結婚の有無別、生活満足度別でも違いがある（弱い関連）。

表 3-10 離職経験:なし<年齢別> n=306

		離職経験:なし		合計
		回答無	回答有	
年齢	20~24歳	8	38	46
		17.4%	82.6%	100.0%
	25~29歳	34	25	59
		57.6%	42.4%	100.0%
	30~34歳	72	21	93
		77.4%	22.6%	100.0%
	35~39歳	72	36	108
		66.7%	33.3%	100.0%
合計		186	120	306
		60.8%	39.2%	100.0%

カイ二乗検定 5%水準で有意

表 3-11 離職経験:なし<職業別> n=304

		離職経験:なし		合計
		回答無	回答有	
職業	正社員・正職員	61	91	152
		40.1%	59.9%	100.0%
	非正社員・非正職員・自営業・その他	85	15	100
		85.0%	15.0%	100.0%
	主婦	31	0	31
		100.0%	0.0%	100.0%
	学生・その他無職	7	14	21
		33.3%	66.7%	100.0%
合計		184	120	304
		60.5%	39.5%	100.0%

カイ二乗検定 5%水準で有意

表 3-12 離職経験:なし<正規・非正規別> n=237

		離職経験:なし		合計
		回答無	回答有	
正規・非正規	正社員・正職員	61	91	152
		40.1%	59.9%	100.0%
	非正社員・非正職員	72	13	85
		84.7%	15.3%	100.0%
合計		133	104	237
		56.1%	43.9%	100.0%

カイ二乗検定 5%水準で有意

次に多かった「出産・育児のため離職したことがある」という回答は、職業別（表 3-13）および結婚の有無別（表 3-14）で次のとおり違いがみられた（比較的強い関連）。なお、居住歴別、年収別、正規・非正規別でも弱い関連がある。

表 3-13 離職経験:出産・育児のため<職業別> n=304

		離職:出産育児のため		合計
		回答無	回答有	
職業	正社員・正職員	138	14	152
		90.8%	9.2%	100.0%
	非正社員・非正職員・自営業・その他	67	33	100
		67.0%	33.0%	100.0%
	主婦	14	17	31
45.2%		54.8%	100.0%	
学生・その他無職	21	0	21	
	100.0%	0.0%	100.0%	
合計		240	64	304
		78.9%	21.1%	100.0%

カイ二乗検定 5%水準で有意

表 3-14 離職経験:出産・育児のため<結婚の有無別> n=305

		離職:出産育児のため		合計
		回答無	回答有	
結婚	既婚(パートナーあり)	123	55	178
		69.1%	30.9%	100.0%
	離死別	10	8	18
		55.6%	44.4%	100.0%
未婚		108	1	109
		99.1%	0.9%	100.0%
合計		241	64	305
		79.0%	21.0%	100.0%

カイ二乗検定 5%水準で有意

(5) 将来のキャリア <Q08>

全員に将来どんなキャリアを歩みたいか 1つを選択してもらったところ、表 3-15 のとおりであった。割合の高い順に並べている。

表 3-15 将来のキャリア(1つ回答) n=307

成り行きにまかせたい	18.2
今の会社で専門職として自分の専門性を活かせる仕事がしたい	16.9
あまり考えたことがない	15.6
他の会社に転職したい	14.7
今の会社で定型的・補助的な業務をしたい	7.5
これ以上昇進せずこのままでいきたい	7.2
その他	4.6
今の会社で管理職や役員として活躍したい	4.2
フリーランスで仕事をしたい	3.9
やがて独立して、自分で事業を起こしたい	3.6
無回答	3.6
仕事はしない	0.0

生活満足度別にみたところ、表 3-16 のとおりであった。

表 3-16 将来のキャリア〈生活満足度別〉 n=295

生活満足		将来のキャリア										合計
		今の会社、 管理職・役 員	今の会社、 専門職	今の会社、 定型的・補 助的	このままで いたい	他会社に転 職	独立・起業	成り行きま かせ	フリーラン ス	考えたこと がない	その他	
満足		7	43	17	16	25	6	44	7	39	10	214
		3.3%	20.1%	7.9%	7.5%	11.7%	2.8%	20.6%	3.3%	18.2%	4.7%	100.0%
不満		6	8	6	6	20	5	12	5	9	4	81
		7.4%	9.9%	7.4%	7.4%	24.7%	6.2%	14.8%	6.2%	11.1%	4.9%	100.0%
合計		13	51	23	22	45	11	56	12	48	14	295
		4.4%	17.3%	7.8%	7.5%	15.3%	3.7%	19.0%	4.1%	16.3%	4.7%	100.0%

カイ二乗検定 5%水準で有意

(6) 働くことに対する自信のなさ・不安〈Q09〉

全員に働くことに対して自信がない、不安だと思うことについて複数回答で答えてもらったところ、表 3-17 のとおりであった。割合の高い順に並べている。上位 3 項目について、詳しくみていこう。

表 3-17 働くことに対する自信のなさ・不安(複数回答) n=307

家事とのやりくりを上手くできるかどうか	50.8
自身の能力が通用するかどうか	42.7
対人関係で上手くやっていけるかどうか	41.4
健康でいられるか、体調を崩さないかどうか	40.4
ワーク・ライフ・バランスを保てるかどうか	37.8
経済的に自立できるかどうか	32.6
女性が働くことに対する固定観念をくつがえせるかどうか	5.2
自信がないと思うことはない	3.9
その他、自信がないと思うことがある	3.6

もっとも多数であった〈家事とのやりくりを上手くやっていけるかどうか〉という回答は、職業別(表 3-18) および結婚の有無別(表 3-19) にみると、次のとおり違いがみられた。

表 3-18 自信のなさ:家事のやりくり〈職業別〉 n=304

職業		自信がない:家事のやりくり		合計
		回答無	回答有	
職業	正社員・正職員	82	70	152
		53.9%	46.1%	100.0%
	非正社員・非正職員・自営業・その他	44	56	100
		44.0%	56.0%	100.0%
主婦	8	23	31	
	25.8%	74.2%	100.0%	
学生・その他無職	16	5	21	
	76.2%	23.8%	100.0%	
合計		150	154	304
		49.3%	50.7%	100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 3-19 自信のなさ:家事のやりくり(結婚の有無別) n=305

		自信がない:家事のやりくり		合計
		回答無	回答有	
結婚	既婚 (パートナーあり)	66	112	178
		37.1%	62.9%	100.0%
	離死別	8	10	18
		44.4%	55.6%	100.0%
	未婚	75	34	109
		68.8%	31.2%	100.0%
合計		149	156	305
		48.9%	51.1%	100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

次に多かった「自身の能力が通用するかどうか」という回答は、年齢別 (表 3-20) および健康状態別 (表 3-21) で次のとおり違いがみられた。

表 3-20 自信のなさ:自身の能力<年齢別> n=306

		自信がない:自身の能力		合計
		回答無	回答有	
年齢	20~24歳	17	29	46
		37.0%	63.0%	100.0%
	25~29歳	32	27	59
		54.2%	45.8%	100.0%
30~34歳	54	39	93	
	58.1%	41.9%	100.0%	
35~39歳	72	36	108	
	66.7%	33.3%	100.0%	
合計		175	131	306
		57.2%	42.8%	100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 3-21 自信のなさ:自身の能力<健康状態別> n=306

		自信無:能力		合計
		回答無	回答有	
健康状態	良い	13	23	36
		36.1%	63.9%	100.0%
	どちらともいえない	158	100	258
		61.2%	38.8%	100.0%
	悪い	4	8	12
		33.3%	66.7%	100.0%
合計		175	131	306
		57.2%	42.8%	100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

3番目に多かった「対人関係で上手くやっていけるかどうか」という回答は、職業別 (表 3-22) および健康状態別 (表 3-23) で次のとおり違いがみられた。

表 3-22 自信のなさ:対人関係(職業別) n=304

		自信がない:対人関係		合計
		回答無	回答有	
職業	正社員・正職員	90 59.2%	62 40.8%	152 100.0%
	非正社員・非正職員・自営業・その他	63 63.0%	37 37.0%	100 100.0%
	主婦	21 67.7%	10 32.3%	31 100.0%
	学生・その他無職	5 23.8%	16 76.2%	21 100.0%
合計		179 58.9%	125 41.1%	304 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 3-23 自信のなさ:対人関係(健康状態別) n=306

		自信がない無:対人関係		合計
		回答無	回答有	
健康状態	良い	25 69.4%	11 30.6%	36 100.0%
	どちらともいえない	153 59.3%	105 40.7%	258 100.0%
	悪い	1 8.3%	11 91.7%	12 100.0%
合計		179 58.5%	127 41.5%	306 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

(7) 職場における男女の地位 (Q10)

一般的に職場における男女の地位は平等になっていると思うか、1つ選んで回答してもらったところ、男性のほうがとても優遇されている7.5%、どちらかといえば男性のほうに優遇されている42.0% (以上、「男性優遇」49.5%)、どちらかといえば女性のほうに優遇されている4.2%、女性のほうがとても優遇されている0.3% (以上、「女性優遇」4.5%)、平等28.3%、わからない16.3%、DK/NA1.3%という結果であった。

職業別 (表 3-24)、正規・非正規別 (表 3-25)、生活満足度別 (表 3-26) は次のとおりである。

表 3-24 職場における男女の地位(職業別)n=250

		職場の男女の地位			合計
		男性優遇	平等	女性優遇	
職業	正社員・正職員	61 45.2%	66 48.9%	8 5.9%	135 100.0%
	非正社員・非正職員・自営業・その他	56 70.0%	18 22.5%	6 7.5%	80 100.0%
	主婦	21 87.5%	3 12.5%	0 0.0%	24 100.0%
	学生・その他無職	11 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
合計		149 59.6%	87 34.8%	14 5.6%	250 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 3-25 職場における男女の地位〈正規・非正規別〉n=206

		職場の男女の地位			合計
		男性優遇	平等	女性優遇	
正規・非正規	正社員・正職員	61 45.2%	66 48.9%	8 5.9%	135 100.0%
	非正社員・非正職員	48 67.6%	17 23.9%	6 8.5%	71 100.0%
合計		109 52.9%	83 40.3%	14 6.8%	206 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 3-26 職場における男女の地位〈生活満足度別〉n=252

		職場の男女の地位			合計
		男性優遇	平等	女性優遇	
生活満足	満足	108 59.7%	68 37.6%	5 2.8%	181 100.0%
	不満	44 62.0%	18 25.4%	9 12.7%	71 100.0%
合計		152 60.3%	86 34.1%	14 5.6%	252 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

(8)女性が職業をもつことについての考え 〈Q11〉

一般的に女性が職業をもつことについてどのように考えるか、1つ回答してもらったところ、「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」という回答が際立って高く64.5%であった。その他の回答は、表 3-27 のとおりである。割合の高い順に並べている。

表 3-27 女性が職業をもつことについて n=307

子どもができてもずっと職業を続ける方がよい	64.5
その他	10.1
子どもができたら職業をやめ、大きくなったらフルタイムで職業をもつ方がよい	8.5
子どもができたら職業をやめ、大きくなったらパートタイムで職業をもつ方がよい	8.5
子どもができるまでは職業をもつ方がよい	3.6
結婚するまでは職業をもつ方がよい	3.3
無回答	1.3

「子どもができてもずっと職業を続けるほうがよい」および「それ以外の回答」を年取別（表 3-28）および職業別（表 3-29）にみたところ、次のとおりの結果であった。

表 3-28 女性が職業をもつことについて〈年収別〉 n=295

		女性と職業		合計
		それ以外	ずっと職業を続ける	
年収	100万円未満	43 54.4%	36 45.6%	79 100.0%
	100-200万円未満	30 32.6%	62 67.4%	92 100.0%
	200-300万円未満	17 23.0%	57 77.0%	74 100.0%
	300万円以上	14 28.0%	36 72.0%	50 100.0%
合計		104 35.3%	191 64.7%	295 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 3-29 女性が職業をもつことについて〈職業別〉 n=301

		女性と職業		合計
		それ以外	ずっと職業を続ける	
職業	正社員・正職員	41 27.3%	109 72.7%	150 100.0%
	非正社員・非正職員・ 自営業・その他	35 35.0%	65 65.0%	100 100.0%
	主婦	19 63.3%	11 36.7%	30 100.0%
	学生・その他無職	10 47.6%	11 52.4%	21 100.0%
合計		105 34.9%	196 65.1%	301 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

4 結婚、家族に関する実態と意識

(1) パートナーとの関係 〈Q12-1〉

「結婚している」「結婚していないがパートナーと暮らしている」と回答した人に夫(パートナー)との様子についての5項目をたずねたところ、表4-1のとおりであった。

表 4-1 夫(パートナー)との関係 n=178

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	無回答
私は夫(パートナー)の心配ごとや悩みごとを聞いている	34.3	43.8	14.6	6.7	0.6
私は夫(パートナー)の能力や努力を高く評価している	42.7	41.0	13.5	2.2	0.6
私は夫(パートナー)に助言やアドバイスをしている	24.7	44.9	24.7	5.1	0.6
夫(パートナー)は、私の心配ごとや悩みごとを聞いてくれる	38.8	39.9	13.5	6.7	1.1
夫(パートナー)は、私の能力や努力を高く評価している	30.3	40.4	21.9	5.1	2.2
夫(パートナー)は、私に助言やアドバイスをしてくれる	36.5	34.8	20.8	7.3	0.6

6項目すべてを生活満足度別にみると、次のとおりであった(表4-2、表4-3、表4-4、表4-5、表4-6、表4-7)。

表 4-2 夫(パートナー)の悩みごとを聞く(生活満足度別) n=176

		夫の悩み聞く				合計
		あてはまる	どちらか といえば あてはまる	どちらか といえば あてはま らない	あてはま らない	
生活満足	満足	56 41.5%	57 42.2%	17 12.6%	5 3.7%	135 100.0%
	不満	5 12.2%	20 48.8%	9 22.0%	7 17.1%	41 100.0%
合計		61 34.7%	77 43.8%	26 14.8%	12 6.8%	176 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 4-3 夫(パートナー)を高く評価している(生活満足度別) n=176

		夫を評価				合計
		あてはまる	どちらか といえば あてはまる	どちらか といえば あてはま らない	あてはま らない	
生活満足	満足	66 48.9%	57 42.2%	11 8.1%	1 0.7%	135 100.0%
	不満	9 22.0%	16 39.0%	13 31.7%	3 7.3%	41 100.0%
合計		75 42.6%	73 41.5%	24 13.6%	4 2.3%	176 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 4-4 夫(パートナー)に助言やアドバイスする(生活満足度別) n=176

		夫に助言				合計
		あてはまる	どちらか といえば あてはまる	どちらか といえば あてはま らない	あてはま らない	
生活満足	満足	39 28.9%	61 45.2%	33 24.4%	2 1.5%	135 100.0%
	不満	5 12.2%	19 46.3%	11 26.8%	6 14.6%	41 100.0%
合計		44 25.0%	80 45.5%	44 25.0%	8 4.5%	176 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 4-5 夫(パートナー)は悩みごとを聞いてくれる(生活満足度別) n=176

		夫が聞いてくれる				合計
		あてはまる	どちらか といえば あてはまる	どちらか といえば あてはま らない	あてはま らない	
生活満足	満足	63 46.7%	55 40.7%	15 11.1%	2 1.5%	135 100.0%
	不満	6 14.6%	16 39.0%	9 22.0%	10 24.4%	41 100.0%
合計		69 39.2%	71 40.3%	24 13.6%	12 6.8%	176 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 4-6 夫(パートナー)は私を高く評価してくれる(生活満足度別) n=174

		夫から評価				合計
		あてはまる	どちらか といえば あてはまる	どちらか といえば あてはま らない	あてはま らない	
生活満足	満足	49 36.6%	60 44.8%	22 16.4%	3 2.2%	134 100.0%
	不満	5 12.5%	12 30.0%	17 42.5%	6 15.0%	40 100.0%
合計		54 31.0%	72 41.4%	39 22.4%	9 5.2%	174 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 4-7 夫(パートナー)は助言やアドバイスしてくれる(生活満足度別) n=176

		夫から助言				合計
		あてはまる	どちらか といえば あてはまる	どちらか といえば あてはま らない	あてはま らない	
生活満足	満足	59 43.7%	48 35.6%	24 17.8%	4 3.0%	135 100.0%
	不満	5 12.2%	14 34.1%	13 31.7%	9 22.0%	41 100.0%
合計		64 36.4%	62 35.2%	37 21.0%	13 7.4%	176 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

また、後半の3項目を職業別(表4-8、表4-9、表4-10)および正規・非正規別(表4-11、表4-12、表4-13)にみると、次のとおりであった。

表 4-8 夫(パートナー)は悩みごとを聞いてくれる(職業別) n=174

		夫が聞いてくれる				合計
		あてはまる	どちらか といえば あてはまる	どちらか といえば あてはま らない	あてはま らない	
職業	正社員・正職員	41 50.0%	30 36.6%	8 9.8%	3 3.7%	82 100.0%
	非正社員・非正職員・ 自営業・その他	14 22.6%	29 46.8%	11 17.7%	8 12.9%	62 100.0%
	主婦	14 46.7%	12 40.0%	3 10.0%	1 3.3%	30 100.0%
合計		69 39.7%	71 40.8%	22 12.6%	12 6.9%	174 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 4-9 夫(パートナー)は私を高く評価してくれる(職業別) n=172

		夫から評価				合計
		あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	
職業	正社員・正職員	35 42.7%	28 34.1%	17 20.7%	2 2.4%	82 100.0%
	非正社員・非正職員・自営業・その他	9 14.8%	29 47.5%	17 27.9%	6 9.8%	61 100.0%
	主婦	10 34.5%	14 48.3%	4 13.8%	1 3.4%	29 100.0%
合計		54 31.4%	71 41.3%	38 22.1%	9 5.2%	172 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 4-10 夫(パートナー)は助言やアドバイスしてくれる(職業別) n=175

		夫から助言				合計
		あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	
職業	正社員・正職員	35 42.7%	31 37.8%	11 13.4%	5 6.1%	82 100.0%
	非正社員・非正職員・自営業・その他	17 27.0%	17 27.0%	22 34.9%	7 11.1%	63 100.0%
	主婦	13 43.3%	12 40.0%	4 13.3%	1 3.3%	30 100.0%
合計		65 37.1%	60 34.3%	37 21.1%	13 7.4%	175 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 4-11 夫(パートナー)は悩みごとを聞いてくれる(正規・非正規別) n=135

		夫が聞いてくれる				合計
		あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	
正規・非正規	正社員・正職員	41 50.0%	30 36.6%	8 9.8%	3 3.7%	82 100.0%
	非正社員・非正職員	13 24.5%	23 43.4%	10 18.9%	7 13.2%	53 100.0%
合計		54 40.0%	53 39.3%	18 13.3%	10 7.4%	135 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 4-12 夫(パートナー)は私を高く評価してくれる(正規・非正規別) n=134

		夫から評価				合計
		あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	
正規・非正規	正社員・正職員	35 42.7%	28 34.1%	17 20.7%	2 2.4%	82 100.0%
	非正社員・非正職員	9 17.3%	24 46.2%	15 28.8%	4 7.7%	52 100.0%
合計		44 32.8%	52 38.8%	32 23.9%	6 4.5%	134 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 4-13 夫(パートナー)は助言やアドバイスしてくれる(正規・非正規別) n=135

		夫から助言				合計
		あてはまる	どちらか といえ あては まる	どちらか といえ あては まらない	あては まらない	
正規・非 正規	正社員・正職員	35 42.7%	31 37.8%	11 13.4%	5 6.1%	82 100.0%
	非正社員・非正職員	13 24.5%	15 28.3%	19 35.8%	6 11.3%	53 100.0%
合計		48 35.6%	46 34.1%	30 22.2%	11 8.1%	135 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

(2) 結婚希望 (Q12-2)

「離別」「死別」「未婚」と回答した人に、今後結婚したいか質問したところ、絶対したい 28.3%、なるべくしたい 39.4% (以上、「結婚したい」67.7%)、どちらともいえない 15.7%、あまりしたくない 9.4%、絶対したくない 6.3%、DK/NA0.8%であった。

(3) 交際相手(婚約者)の有無 (Q12-3)

「離別」「死別」「未婚」と回答した人に、交際相手(婚約者)がいるかどうか質問したところ、現在婚約者がいる 3.1%、現在交際相手がいる 30.7%、過去にいたが現在交際相手はいない 36.2%、現在も過去も交際相手はいない 28.3%、DK/NA1.6%であった。

(4) 家族の人数 (Q13)

現在の同居家族の人数は、1人 7.2%、2人 13.4%、3人 20.2%、4人 21.2%、5人 16.3%、6人 11.1%、7人以上 10.4%であった (平均値 4.01、中央値 4.0)。

(5) 同居家族 (Q14)

同居している人すべて挙げてもらったところ、夫(パートナー) 56.4%、子ども 49.5%、実父 32.9%、実母 38.1%、義父 16.0%、義母 18.9%、祖父母 14.7%、義祖父母 8.5%、兄弟姉妹 15.3%、義兄弟姉妹 2.6%、その他の親族 2.6%、親族以外 0.3%、DK/NA0.3%であった。

(6) 子どもの人数 (Q14-1)

前問で「子ども」を挙げた人に、子どもの人数をたずねたところ、1人 44.1%、2人 36.8%、3人 13.8%、4人 4.6%、5人 0%、6人以上 0.7%という回答だった。

(7) 子どもの年齢 (Q14-2)

子どもと住んでいると回答した人に子どもの年齢をたずねたところ、表 4-14 のとお

りであった。

表 4-14 子どもの年齢 n=152

	0-3歳未満	3歳-未就学	小学生	中学生	高校生以上	全体
第一子(n=152)	27.6	23.7	32.2	11.8	4.6	100.0
第二子(n=85)	32.9	25.9	34.1	7.1	0.0	100.0
第三子(n=29)	37.9	24.1	37.9	0.0	0.0	100.0
第四子(n=8)	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0	100.0
第五子(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0

(8) 家事・育児分担〈Q15〉

現在、家族のなかでどのように家事・育児が行われているか、回答は表 4-15 のとおりであった。

表 4-15 家事・育児の分担 n=307

a. もっぱら一人が行っている	19.2
b. 主に一人が行い、他の人が少し手伝っている	36.8
c. 主に一人が行っているが、他の人もかなり手伝っている	22.8
d. 複数の人がほぼ同等に分担している	17.6
e. その他	0.7
f. 無回答	2.9

(9) 主たる家事・育児担当〈Q15-1〉

(5)で a. b. c.のいずれかに回答した人に、家事・育児を「もっぱら」または「主に」行っている人はだれか(1人) たずねたところ、自分 52.5%、夫(パートナー) 1.7%、同居している自分の母 32.2%、同居している自分の父 0.8%、同居している義母 7.0%、同居している義父 0%、同居している祖父母 2.1%、同居している他の家族・家族以外の同居者 0%、その他 1.2%、DK/NA2.5%という結果であった。

自分と回答した人を結婚の有無別(表 4-10) および住居形態別(表 4-11)にみると、次のとおり違いがみられた。

表 4-16 家事・育児の分担〈結婚の有無別〉 n=126

		家事育児：主に自分			合計
		もっぱら一人が行っている	主に一人が行い、他の人が少し手伝っている	主に一人が行っているが、他の人もかなり手伝っている	
結婚	既婚(パートナーあり)	19 20.7%	45 48.9%	28 30.4%	92 100.0%
	離死別	8 88.9%	1 11.1%	0 0.0%	9 100.0%
	未婚	22 88.0%	2 8.0%	1 4.0%	25 100.0%
合計		49 38.9%	48 38.1%	29 23.0%	126 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

表 4-17 家事・育児の分担〈住居形態別〉 n=125

		家事育児：主に自分			合計
		もっぱら一人が行っている	主に一人が行い、他の人が少し手伝っている	主に一人が行っているが、他の人もかなり手伝っている	
	持ち家(戸建・マンション)	16 27.1%	26 44.1%	17 28.8%	59 100.0%
	借家・賃貸アパート・公営住宅等	34 51.5%	20 30.3%	12 18.2%	66 100.0%
合計		50 40.0%	46 36.8%	29 23.2%	125 100.0%

カイ二乗検定 5%水準で有意

(10)子ども希望〈Q16〉

全員に今後、子どもを持ちたいか(現在いる人はさらに持ちたいか)たずねたところ、近いうちに持ちたい 22.5%、いずれ持ちたい 28.7% (以上、持ちたい 51.2%)、持ちたくない 20.5%、現在妊娠している 16.6%、その他 3.2%、わからない 8.1%という回答であった。

正規・非正規別にみると(表 4-18)、「持ちたい」(「近いうちに持ちたい」+「持ちたい」の合計)という回答が正規職 63.1%に対して、非正規職 38.8%と違いがある。

表 4-18 今後の子ども希望〈正規・非正規別〉 n=237

		今後の子ども						合計
		近いうちに持ちたい	いつかは持ちたい	持ちたくない	現在妊娠している	その他	わからない	
雇用者	正社員・正職員	42 27.6%	54 35.5%	21 13.8%	20 13.2%	6 3.9%	9 5.9%	152 100.0%
	非正社員・非正職員	17 20.0%	16 18.8%	25 29.4%	15 17.6%	2 2.4%	10 11.8%	85 100.0%
合計		59 24.9%	70 29.5%	46 19.4%	35 14.8%	8 3.4%	19 8.0%	237 100.0%

カイ二乗検定 1%水準で有意

5 女性活躍等に関する意識・意向

(1) 性別役割分業・結婚／離婚・自己認識・地域〈Q19〉

①性別役割分業意識

性別役割分業に関する 6 項目の回答結果は、表 5-1 のとおりである。いずれも、性別役割分業に否定的な回答、すなわち A.~D.および I.では「あてはまらない」(「あてはまらない」+「どちらかといえばあてはまらない」の合計、以下同じ)という回答、G.では「あてはまる」(「あてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」の合計、以下同じ)が、性別役割分業に肯定的な回答を上回っている。

表 5-1 性別役割分業意識 n=307

	あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い	DK/NA	全体
A. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである	1.6	26.4	36.5	35.2	0.3	100.0
B. 子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念すべきだ	8.8	28.3	32.9	29.6	0.3	100.0
C. 家族を(経済的に)養うのは男性の役割だ	6.8	40.7	30.3	20.2	2.0	100.0
D. 公的に(国や地域や会社など)重要な決定をする仕事は、女性より男性に適している	5.2	24.8	43.6	25.1	1.3	100.0
G. できれば、女性も一生働き続けた方がよい	32.2	45.3	15.6	4.2	2.6	100.0
I. 女性は結婚したら、家事・育児に専念すべきである	2.9	12.7	42.7	40.7	1.0	100.0

②家事・育児分担

家事・育児分担に関する3項目の回答は、表5-2のとおりである。〈家事や育児には、男性より女性が適している〉に「あてはまる」という回答が64.8%である一方で、〈男性も家事・育児を行うことは当然である〉に「あてはまる」92.8%、〈妻が勤めていれば、それに見合っ
て、夫(パートナー)も家事を分担すべきだ〉に「あてはまる」95.5%となっている。

表 5-2 家事・育児分担についての意識 n=307

	あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い	DK/NA	全体
E. 家事や育児には、男性より女性が適している	11.7	53.1	22.8	10.1	2.3	100.0
F. 男性も家事・育児を行うことは、当然である	49.5	43.3	4.6	1.3	1.3	100.0
H. 妻が勤めていれば、それに見合っ て、夫(パートナー)も家事を分 担すべきだ	60.3	35.2	2.6	1.0	1.0	100.0

③結婚／離婚や家族

結婚／離婚や家族に関する3項目の回答は、表5-3のとおりである。

表 5-3 結婚や家族についての意識 n=307

	あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い	DK/NA	全体
N. 経済的に自立していれば、あえて結婚する必要はない	9.8	23.8	38.8	26.4	1.3	100.0
O. 結婚したからといって、あえて子どもを産む必要はない	17.6	33.9	31.3	16.0	1.3	100.0
P. 子どもがいても、夫婦仲が悪ければ離婚したほうがよい	20.5	41.7	27.0	9.4	1.3	100.0

④自己認識・望ましい生き方

自己認識・望ましい生き方に関する6項目の回答は、表5-4のとおりである。とくに、〈あくせくせず、のんびりとした生活を送りたい〉に「あてはまる」89.6%、〈ひとの役に立つ仕

事がしたい)に「あてはまる」84.4%という結果である。

表 5-4 自己認識・望ましい生き方についての意識 n=307

	あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い	DK/NA	全体
J. あくせくせず、のんびりとした生活を送りたい	52.1	37.5	8.8	1.0	0.7	100.0
K. 苦労してでも、色々なことに挑戦していきたい	13.7	30.3	45.0	9.8	1.3	100.0
L. 自分にはひとよりすぐれたところがある	4.2	22.5	48.9	23.5	1.0	100.0
M. ひとよりも高い収入を得たい	18.6	43.6	29.0	7.5	1.3	100.0
Q. ひとの役に立つ仕事がしたい	38.8	45.6	12.4	2.6	0.7	100.0
R. 自分に自信がある	3.3	19.2	45.9	30.9	0.7	100.0

⑤地域について

地域に関する4項目の回答は、表5-5のとおりである。目立つ項目として、〈この地域は、安全で安心して暮らせるところだ〉に「あてはまる」84.0%があげられる。

表 5-5 地域についての意識 n=307

	あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い	DK/NA	全体
S. この地域は、安全で安心して暮らせるところだ	24.1	59.9	10.4	4.9	0.7	100.0
T. この地域は、子育てしやすい社会環境が整っている	8.1	42.3	37.1	10.7	1.6	100.0
U. この地域は、古くからの考え方やしきたりに縛られることが多い	20.5	37.1	35.5	4.9	2.0	100.0
V. 地域活動には積極的に参加していきたい	6.2	35.5	43.6	13.7	1.0	100.0

(2) 女性リーダー増の影響 〈Q20〉

全員に、政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか、複数回答でたずねたところ、表5-6のとおりであった。割合の高い順に並べている。

表 5-6 女性リーダー増加の影響(複数回答) n=307

女性の声が反映されやすくなる	62.9
多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	60.3
男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	59.3
男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	50.2
人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	31.3
労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	30.9
保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する	17.9
今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる	4.2
特にない	3.6
男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	1.3
その他	1.3

(3) 女性リーダー増加への障害〈Q21〉

全員に、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害になるものは何だと思うか、複数回答でたずねたところ、表表 5-7 のとおりであった。割合の高い順に並べている。

表 5-7 女性リーダー増加への障害(複数回答) n=307

保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	55.4
保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	51.5
長時間労働の改善が十分ではないこと	42.3
上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	39.1
企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	23.1
現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	21.5
女性自身がリーダーになることを希望しないこと	17.6
特になし	6.2
その他	1.3

(4) 女性就労への企業・行政の支援〈Q22〉

全員に、女性の就労に対する企業や行政による支援としてどのようなことが必要だと思うか、3つまで回答を求めたところ、表表 5-8 のとおりであった。割合の高い順に並べている。

表 5-8 女性就労への企業・行政の支援(複数回答) n=307

保育・介護のための施設やサービス	71.7
男女ともに取得しやすい育児・介護休業制度の啓発・促進	64.8
パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備	42.7
労働条件における男女平等の推進	21.5
女性の職種・職域の拡大	20.5
募集・採用の男女平等の確立	15.3
女性の起業支援	11.1
就業のための技能習得への支援や就職情報の充実	9.8
労働問題や苦情処理窓口の充実	7.5
女性就労についての啓発や広報	7.2
再就職講座やセミナーなどの充実	5.5
その他	2.3

(5) 女性活躍に必要な情報〈Q23〉

全員に、女性の活躍推進の取組のためどのような情報が特に必要になると感じるか、複数回答でたずねたところ、表 5-9 のとおりであった。割合の高い順に並べている。

表 5-9 女性活躍に必要な情報(複数回答) n=307

保育所や幼稚園に関する情報(場所、保育料など)放課後児童クラブに関する情報(場所、利用料など)	69.7
仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報(内容、利用方法など)	58.3
介護・家事の支援サービスに関する情報(内容、利用方法など)	48.9
ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報	34.9
出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報	33.2
就職・再就職のための職業訓練に関する情報(利用方法、相談先など)	30.0
積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報	23.8
起業・NPO活動のための情報(支援内容、相談先)	8.8
特になし	2.9
その他	2.0

(6) 男性の家事・育児参加に必要なこと 〈Q24〉

全員に、今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思うか、複数回答でたずねたところ、表 5-10 のとおりであった。割合の高い順から並べている。

表 5-10 男性の家事・育児参加に必要なこと(複数回答)n=307

男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	69.1
男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	64.5
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかめること	59.0
社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること	51.8
年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	45.6
労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事 以外の時間をより多く持てるようにすること	34.5
男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること	29.3
男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	18.9
男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	16.9
その他	2.0
特に必要なことはない	2.0

(7)意見・要望 (自由記述) 〈Q25〉

女性活躍を進める上での意見・要望などを自由に書いてもらったところ、22.7% (85人) の方から回答していただいた。

回答者を職業別にみると(表 5-11) 主婦が多く (41.9%)、有業者のうち正規・非正規別では(表 5-12) 非正規職 18.8%より正規職 31.6%が多く、結婚の有無別では(表 5-13) 離死別が多く (44.4%)、健康状態別(表 5-14) では健康状態が悪いと回答した者(33.3%) が記述しているという傾向がみられた。

表 5-11 意見・要望(自由記述)〈職業別〉 n=304

		意見要望		合計
		記述無	記述有	
新職業	正社員・正職員	104	48	152
		68.4%	31.6%	100.0%
	非正社員・非正職員・ 自営業・その他	80	20	100
		80.0%	20.0%	100.0%
	主婦	18	13	31
58.1%		41.9%	100.0%	
学生・その他無職	19	2	21	
	90.5%	9.5%	100.0%	
合計		221	83	304
		72.7%	27.3%	100.0%

カイ二乗検定 5%水準で有意

表 5-12 意見・要望(自由記述)〈正規・非正規別〉 n=237

		意見要望		合計
		記述無	記述有	
雇用者	正社員・正職員	104	48	152
		68.4%	31.6%	100.0%
	非正社員・非正職員	69	16	85
		81.2%	18.8%	100.0%
合計		173	64	237
		73.0%	27.0%	100.0%

カイ二乗検定 5%水準で有意

表 5-13 意見・要望(自由記述)〈結婚の有無別〉 n=305

		意見要望		合計
		記述無	記述有	
結婚	既婚 (パートナーあり)	123	55	178
		69.1%	30.9%	100.0%
	離死別	10	8	18
		55.6%	44.4%	100.0%
	未婚	88	21	109
80.7%		19.3%	100.0%	
合計		221	84	305
		72.5%	27.5%	100.0%

カイ二乗検定 5%水準で有意

表 5-14 意見・要望(自由記述)〈健康状態別〉 n=306

		意見要望		合計
		記述無	記述有	
健康状態	良い	33	3	36
		91.7%	8.3%	100.0%
	どちらともいえない	181	77	258
		70.2%	29.8%	100.0%
	悪い	8	4	12
		66.7%	33.3%	100.0%
合計		222	84	306
		72.5%	27.5%	100.0%

カイ二乗検定 5%水準で有意

IV 考察と提言

まず5つの調査項目別に注目すべき点を述べてみよう。

(1) 回答者の属性

20～30歳代の女性307人の回答者のうち、82.1%が現在職業に就いており（他に育児休業中2人）、このうち正規職が6割、非正規職が4割となっている。

仕事内容では、28.4%が専門的職業に就いている。（教師・保育士・看護師13.8%＋専門・技術職14.6%）。居住歴別にみると、教師・保育士・看護師は97.0%が転出経験者および転入者で占められている。市内に養成機関が少ないため、とくに市内で不足している保育士、看護師といった専門職を確保し、活躍してもらうためには、積極的なUターン・Iターン施策が必要であろう。

主婦は、全体の10.1%（33人）であり、そのうちの58.0%（18人）が転入者であり、うち8割弱が結婚のため離職した経験があり、4割強が出産・育児のため離職した経験がある。

既婚者（結婚＋パートナーがいる）の割合は、年齢とともに高くなっているが、35～39歳の未婚者は16.8%にのぼる。

(2) 健康状態、生活満足度

健康状態が良い人ほど、生活満足度が高くなっているという傾向がある。また、正規職の人（「満足」が8割近く）のほうが非正規職の人（「満足」は6割以下）より、生活満足度が高いという傾向があり、仕事内容によって満足度に差がみられ、職業と生活満足度のあいだに関連がみられる。

(3) 職業生活の実態と意識

有業者の就業時間（通勤時間等を含む）は、8～10時間未満49.6%、10～12時間未満17.4%と長時間の回答が多くなっている。

職場に〈仕事と子育てを両立しながら働き続ける先輩が多い〉という回答は、現在の職場での昇進を希望する人に多く、両者に関連のあることがうかがわれる。また、〈育児休業制度等子育てとの両立支援の制度が活用できる雰囲気がある〉との回答は、転入者、収入が比較的高い人、正社員・正職員、生活満足度の高い人に多い傾向にある。さらに、〈女性の先輩や管理職が多い〉という回答は、教師・保育士・看護師でとくに高い傾向がみられた。

現在の職場での昇進希望に関連がみられたのは年収であり、年収が高い人ほど「昇進したい」という回答が多い傾向にある。

離職経験については、経験なしという回答が4割近く、ついで2割強が出産・育児のための離職経験を有していた。

将来のキャリアについては、生活満足度との関連がみられ、「満足」と回答した人は、

今の会社で専門職 2 割、なりゆきまかせが 2 割であり、一方「不満」と回答した人は、転職したいが約 2 割 5 分である。

自信がないと思うことが「ない」と回答した人は、わずか 3.9%であった。自信がないことで回答が多い項目は、「家事とのやりくり」「自身の能力」「対人関係」の順となっている。

職場における男女の地位については、正社員・正職員の約半数が「平等」と回答しており、就業形態によって差がみられる。非正社員・非正職員、自営業等、主婦、学生では「男性優遇」の回答が 7 割以上である。

女性が職業をもつことについては、64.5%が「子どもができてみずっと職業を続ける方がよい」と回答している。

(4) 結婚、家族に関する実態と意識

結婚している（パートナー）人は全体の 60.0%であり、夫（パートナー）との関係については、6 項目すべてが生活満足度との関連があり、概して、「満足」と回答した人ほど「あてはまる」と回答する傾向がみられる。また、夫（パートナー）が「心配ごとや悩みごとを聞いてくれる」「高く評価してくれる」「助言やアドバイスをしてくれる」という回答は、上記のほかに、正社員・正職員ほど「あてはまる」と回答する傾向にあった。生活満足度の高い人や正規職の人が、夫（パートナー）から尊重されていると感じていることがうかがえる。

家事・育児については、「自分」が主に担当している（もっぱら+他が少し手伝い+他がかなり手伝い）という回答が 24.4%と全体の四分の一近くであった。ここには未婚者も含まれている。

今後子どもを持ちたいかどうかについて、51.2%とほぼ半数が持ちたい（近いうちに+いつかは）と回答している。正規職（63.8%）と非正規職（38.8%）とのあいだに大きな差がみられた。

(5) 女性活躍等に関する意識・意向

非常に特徴的なのは、〈男性も家事・育児を行うことは当然である〉に「あてはまる」という回答が 92.8%、〈妻が勤めていれば、それに見合って、夫（パートナー）も家事を分担すべきだ〉に「あてはまる」が 95.5%であったことで、夫（パートナー）の家事分担を当然とする意向が強くみられたことである。

性別役割分業に関連する項目では、これに否定的な回答が多い傾向がみられる。女性だけが家事・育児・介護等を担うという性別役割分業意識は、若い女性においては明らかに弱まっているといえる。

自己認識・望ましい生き方については、〈あくせくせず、のんびりとした生活を送りたい〉や〈ひとの役に立つ仕事がしたい〉に「あてはまる」という回答が多く、また地域に関連する

項目では、〈この地域は、安全で安心して暮らせるところだ〉に「あてはまる」とする人が多い傾向にあった。

女性リーダーの増加の影響については、6割以上が、〈女性の声が反映されやすくなる〉、〈多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される〉と回答しており、プラスの影響が多くあげられている。一方、女性リーダー増加の障害となることについては、5割超が、〈保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと〉、〈保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと〉と回答しており、保育や介護が課題であるとともに、ここでも夫（パートナー）の家事・育児へのかかわりが求められている。

女性の就労に対する企業や行政の支援については、7割が〈保育・介護のための施設やサービス〉、約6割5分が〈男女ともに取得しやすい育児・介護休業制度の啓発・促進〉と回答している。

女性活躍推進のために必要な情報については、約7割が〈保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）放課後児童クラブに関する情報（場所、利用料など）〉、6割弱が〈仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）〉と回答している。

男性の家事・子育て等への参加に必要なことについては、約7割が〈男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと〉、6割5分が〈男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること〉、6割弱が〈夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること〉と回答している。

以上から、今後の施策・事業へのヒントを導き出していきたい。

第一に、回答してくださった酒田市在住の20～30歳代の女性たちは、働き続けることに関して肯定的な人が多く、真剣に向き合い、一生懸命取り組んでいることがうかがえる。行政は、この女性たちの思いにしっかりと向き合い、応援するという姿勢を示して、具体的な支援策を実行していくことが必要である。

求められるのは、やはり、仕事と家事・育児・介護等の家庭責任との両立支援である。女性だから（だけが）両立するのは当たり前、女性だからたいへんなのは当たり前とするのではなく、少しでも働きやすい職場にしていけるよう、知恵を絞りたい。家族と、とくに子どもたちと過ごす時間を増やすことができるよう、働き方の見直しを進めたい。若い女性たちが自ら発言し、職場の雰囲気や長年の慣行を変えていくために、行政は後押ししてほしい。行政が本気で女性活躍推進に取り組むという姿勢を企業にも示し、働く人たちを力づけてほしい。

第二に、女性が働きやすい職場づくりは、男性にとっても働きやすい職場づくりであることをあらためて認識し、男性への働きかけを強めることが必要である。若い女性たちは、パートナーに家事・育児をともに担ってほしいと切に望んでいる。個別の家庭のなかの争いになってしまわぬよう、地域全体で、男性も家事・育児・介護に積極的にかわることを推奨していきたい。たとえば、よい事例として、“コーヒーマシンの淹れ方講座”

を開催し美味しいコーヒーを味わいながら、男性同士が話し合う場づくりになったという。抵抗感なく、男性の仲間づくりや家事・育児への参画が進むよう、工夫を凝らしたい。男性たちが家事・育児のスキルを磨くチャンスをぜひ増やしていきたい。

第三に、女性たち自身のエンパワーメント（力を引き出すこと）も必要である。パートナーと対話し、働きかける力を養うことや、職場でこれまで言いづらかったことを発言する力を蓄えていくことも大切である。「女だから」「自信がないから」と足踏みせずに、女性同士のコミュニケーション力やネットワークを活用して、お互いさらに元気になっていきたいものである。持てる力を発揮したり、リーダーシップをとったりする女性がいなければ、いつまでも“ロールモデル”は育たない。ぜひ一歩前へと進んでほしい。そのために、女性たちの学びの場がひきつづき必要である。

最後に、アンケート調査にご協力くださった女性の皆さんに、心からのお礼の気持ちを伝えたい。アンケートの分析はいまだ十分なものではなく、なお分析を進めていく所存である。酒田市の女性たち、そして男性たちが、さらには庄内地域、山形県のだれもが働きやすく、暮らしやすくなるために、本報告書を活用していただければ幸いである。

<参考文献・資料>

-文献-

稲葉昭英・保田時男・田淵六郎。田中重人編，2016，『日本の家族 1999-2009—全国家族調査[NFRJ]による計量社会学』東京大学出版会。

江原由美子，2001，『ジェンダー秩序』勁草書房。

大槻奈巳，2015，『職務格差—女性の活躍推進を阻む要因はなにか』勁草書房。

濱口桂一郎，2015，『働く女子の運命』文芸春秋。

矢澤澄子・岡村清子・東京女子大学女性学研究所編，2009，『女性とライフキャリア』勁草書房。

-資料-

大阪府商工労働部・大阪大学監修，2014，『若年女性の就業意識等に関する調査結果報告書—女性が輝く社会の実現に向けて』大阪府商工労働部。

www.pref.osaka.lg.jp/attach/1949/00051733/147_jyakunenjyosei_full.pdf

(2017.6.22 参照)

酒田市，2013，「男女がともに暮らしやすいまちづくり市民アンケート」酒田市。

独立行政法人労働政策研究・研修機構，2011，『労働政策研究報告書 No.136 出産・育児期の就業継続—2005年以降の動向に注目して』独立行政法人労働政策研究・研修機構。<http://www.jil.go.jp/institute/reports/2011/0136.html> (2017.8.26 参照)

- 鳥取県, 2014, 「女性活躍加速化アンケート調査結果」
<http://www.pref.tottori.lg.jp/244474.htm> (2017.6.12 参照)
- 内閣府男女共同参画局, 2006, 「女性のライフプランニング支援に関する調査報告書」
www.gender.go.jp/research/kenkyu/raifupuran/pdf/raifupuran1903.pdf
(2017.8.25 参照)
- 内閣府男女共同参画局, 2006, 「男女の働き方と仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する調査結果」
<http://www.gender.go.jp/kaigi/senmon/syosika/pdf/g-work.pdf> (2017.8.25 参照)
- 内閣府男女共同参画局, 2013, 「ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査報告書」
<http://www.cao.go.jp/wlb/research.html> (2017.8.27 参照)
- 内閣府男女共同参画局, 2014, 「女性の活躍推進に関する世論調査」
<https://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-joseikatsuyaku/index.html>
(2017.8.25 参照)
- 内閣府男女共同参画, 2014, 「男女の働き方と仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する調査」
www.gender.go.jp/kaigi/senmon/syosika/pdf/g-work.pdf
(2017.8.25 参照)
- 内閣府男女共同参画局, 2015, 「地域における女性の活躍に関する意識調査」
www.gender.go.jp/research/kenkyu/chiiki_ishiki.html (2017.6.12 参照)
- 内閣府男女共同参画局, 2016, 「男女共同参画に関する世論調査」
<http://www.gender.go.jp/research/yoron/index.html> (2017.6.12 参照)
- 21 世紀職業財団, 2001, 「キャリア形成と仕事と家庭の両立に関する意識調査報告書」
<https://ci.nii.ac.jp/naid/40004822443/> (2017.8.25 参照)

<資 料>

【資料 1】 女性の暮らしと働き方に関するアンケート調査

平成 29 年 9 月

本調査は、酒田市にお住まいの 20 歳代・30 歳代の女性が、この地域で生き生きと働き、暮らし続けるために必要なことは何なのかを明らかにすることを目的に実施するものです。調査結果は、統計的な処理を行いますので、個人が特定されるようなことは決してありません。**お答えにくい質問は、とばしていただいてもけっこうです。**

なお、本調査は、平成 29 年度「大学まちづくり地域政策形成事業研究委託」（酒田市）の受託研究である「酒田市における女性活躍推進のための基礎調査研究」の一環として実施し、東北公益文科大学伊藤真知子研究室が集計・分析を担当します。

以上のことをご了承のうえ、ご多用のところ恐縮ですが、アンケートへのご回答をお願いいたします。

同封の返信封筒(切手不要)に入れて、**9 月 25 日(月)**までに郵便ポストに投函してください。

◇本調査へのお問い合わせは、下記をお願いします。

東北公益文科大学 伊藤真知子

E-mail: joseityosa2017@gmail.com

◆あなたご自身についてうかがいます。

Q01 あなたの年齢は、満でおいくつですか。平成 29 年 9 月 1 日現在でお答えください。

1. 20～24 歳
2. 25～29 歳
3. 30～34 歳
4. 35～39 歳
5. 40 歳以上

Q02 あなたが最後に入学した（または在学中）の学校はどれにあたりますか。（○は 1 つ）

1. 中学校・高等学校
2. 高専・短大・専修学校
3. 大学・大学院
4. その他（具体的に)

Q03 あなたの酒田市での居住歴について、次の中からあてはまるものをお答えください。（○は 1 つ）

1. 酒田市（旧平田町、旧八幡町、旧松山町を含む、以下同じ）出身で、ずっと酒田市で生活している（市内の転居を含む）
2. 酒田市出身で、進学により、酒田市以外で生活したことがある
3. 酒田市出身で、就職により、酒田市以外で生活したことがある
4. 酒田市出身で、転勤または転職により、酒田市以外で生活したことがある
5. 酒田市出身ではなく、進学のため、酒田市に転入した
6. 酒田市出身ではなく、就職または転勤・転職のため、酒田市に転入した。
7. 酒田市出身ではなく、結婚または配偶者の転勤・転職のため、酒田市に転入した。
8. その他（具体的に)

Q04 現在のお住まいは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 持ち家（一戸建て） | 2. 持ち家（マンションなどの集合住宅） |
| 3. 県営住宅・市営住宅 | 4. 民間の借家または賃貸アパート |
| 5. 社宅・職員住宅 | 6. その他（具体的に |

Q05 過去1年間のあなたの年収は税込みで次のどれに近いでしょうか。臨時収入、副収入も含めてお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|-----------------|----------------|
| 1. なし | 2. 100万円未満 | 3. 100～200万円未満 |
| 4. 200～300万円未満 | 5. 300～400万円未満 | 6. 400～600万円未満 |
| 7. 600～800万円未満 | 8. 800～1000万円未満 | 9. 1000万円以上 |

◆あなたのお仕事についてうかがいます。

Q06 あなたは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------------|---------|
| 1. [有業] 正社員・正職員 | →Q06-1へ |
| 2. [有業] 非正社員・非正職員（パート、派遣、契約社員など） | →Q06-1へ |
| 3. [有業] 会社・団体の役員 | →Q06-1へ |
| 4. [有業] 自営業（家族従業者や内職を含む） | →Q06-1へ |
| 5. [有業] その他 | →Q06-1へ |
| 6. [無職] 主婦 | →Q07へ |
| 7. [無職] 学生 | →Q07へ |
| 8. [無職] その他 | →Q07へ |

【Q06で[有業]と答えた方に】

Q06-1 あなたの現在のお仕事の内容は、次のどれにあたりますか。あてはまるものが複数ある場合は、主なもの1つに○をつけてください。

1. 教師・保育士・看護師
2. 専門・技術職（医師、弁護士、エンジニア、薬剤師、栄養士、デザイナー、編集者、通訳など）
3. 管理職（会社経営者・役員、課長以上の管理職）
4. 事務・営業職（事務員、営業社員、秘書、銀行員、集金人、速記者、キーパンチャーなど）
5. 販売・サービス・保安職（店主・店員、外交員、美容師、クリーニング、給仕、接客、調理師、介護士、ヘルパー、清掃、警察官、自衛官、消防員、警備員など）
6. 農林漁業職（農耕・畜産・養殖・造園など）
7. 生産・輸送・建設・労務職（組立工、DTPオペレーター、建設作業員、運転手、新聞配達など）
8. その他（具体的に

Q06-2 あなたの職場の特徴についてうかがいます。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. 男女の区別なく昇進・昇格できる雰囲気がある
2. 育児休業制度等子育てとの両立支援の制度が活用できる雰囲気がある
3. 従業員の個人的な生活時間の確保に配慮する雰囲気がある
4. 残業や休日出勤が少ない
5. フレックスタイム制度や在宅勤務制度など柔軟に働ける環境がある
6. 女性の先輩や管理職が多くいる
7. 仕事と子育てを両立しながら働き続ける先輩が多くいる
8. 自分にとってやりがいがあると思える仕事をする事ができる
9. 仕事の負担が重い
10. 恒常的に残業や休日出勤が多い
11. 教育・訓練機会が少ない
12. 男女で受け持つ仕事の内容がはっきり分かれている
13. 女性が働くことへの上司や同僚の男性の認識・理解が不十分である
14. どれにもあてはまらない

Q06-3 あなたの現在の就業時間は、通勤時間を含めて、1日何時間くらいですか。働いている日について、残業時間や昼休みなどの休憩時間も含めた平均的な時間をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|----------------|-------------|
| 1. 就業していない(0時間) | 2. 就業していて2時間未満 | 3. 2~4時間未満 |
| 4. 4~6時間未満 | 5. 6~8時間未満 | 6. 8~10時間未満 |
| 7. 10~12時間未満 | 8. 12時間以上 | 9. その他() |

Q06-4 あなたは、現在の職場で昇進したいと思いますか。あてはまるものを選んでください。(○は1つ)
 ※「昇進」とは、現在より権限や責任が大きい仕事につくことをいい、非正社員の方が正社員に登用されることを含みます。

- | | | |
|---------------------|------------|---------------------|
| 1. 昇進したい | 2. 昇進したくない | 3. 現在の職場で昇進することは難しい |
| 4. 昇進制度や昇進できるポストがない | 5. わからない | |

【全員の方に】

Q07 あなたは離職した経験がありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。
 ※学生のアルバイトは除いてお答えください。

1. 結婚のため離職したことがある
2. 出産・育児のため離職したことがある
3. 介護・看護のため離職したことがある
4. 転職又は起業のため離職したことがある
5. 離職したことはない
6. その他(具体的に)

Q08 あなたは将来どんなキャリアを歩みたいと考えていますか。次の中から当てはまるものを選んで

ください。(○は1つ)

1. 今の会社で管理職や役員として活躍したい
 2. 今の会社で専門職として自分の専門性を活かせる仕事がしたい
 3. 今の会社で定型的・補助的な業務をしたい
 4. これ以上昇進せずこのままでいきたい
 5. 他の会社に転職したい
 6. やがて独立して、自分で事業を起こしたい
 7. 成り行きにまかせたい
 8. フリーランスで仕事をしたい
 9. 仕事はしない
 10. あまり考えたことがない
 11. その他 (具体的に)
-

Q09 あなたは、働くことに対して自信がない、不安だと思うことはありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. 自身の能力が通用するかどうか
 2. 対人関係で上手くやっっていけるかどうか
 3. 経済的に自立できるかどうか
 4. ワーク・ライフ・バランスを保てるかどうか
 5. 家事とのやりくりを上手くできるかどうか
 6. 健康でいられるか、体調を崩さないかどうか
 7. 女性が働くことに対する固定観念をくつがえせるかどうか
 8. その他、自信がないことがある (具体的に)
 9. 自信がないと思うことはない
-

Q10 一般的に職場における男女の地位は平等になっていると思いますか。次の中からあなたの気持ちにもっとも近いものをお答えください。(○は1つ)

1. 男性のほうが非常に優遇されている
2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
3. 平等
4. どちらかといえば女性のほうが優遇されている
5. 女性の方が非常に優遇されている
6. わからない

Q11 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。(○は1つ)

1. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
2. 子どもができるまでは職業をもつ方がよい
3. 子どもができてずっと職業を続ける方がよい
4. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったらフルタイムで職業をもつ方がよい
5. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったらパートタイムで職業をもつ方がよい
6. 女性は職業をもたない方がよい
7. その他 (具体的に)

◆結婚や、ご家族のことについてうかがいます。

Q12 あなたは、結婚していますか。(○は1つ)

1. 結婚している →Q12-1 へ
2. 結婚していないがパートナーと暮らしている →Q12-1 へ
3. 離別 →Q12-2 へ
4. 死別 →Q12-2 へ
5. 未婚 →Q12-2 へ

【Q12で「1. 結婚している」「2. 結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方に】

Q12-1 あなたとあなたの夫(パートナー)とのお二人のご様子について、次の中からもっとも近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。(○はそれぞれに1つ)

あてはまる どちらかといえば どちらかといえば あてはまらない
あてはまる あてはまらない

- | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|---|---|
| A. 私は、夫(パートナー)の心配ごとや悩み
ごとを聞いている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| B. 私は、夫(パートナー)の能力や努力を高く
評価している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| C. 私は、夫(パートナー)に助言やアドバイスを
している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| D. 夫(パートナー)は、私の心配ごとや悩み
ごとを聞いてくれる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| E. 夫(パートナー)は、私の能力や努力を高く
評価してくれる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| F. 夫(パートナー)は、私に助言やアドバイスを
してくれる | 1 | 2 | 3 | 4 |

【Q12で「3. 離別」「4. 死別」「5. 未婚」と答えた方に】

Q12-2 あなたは今後、結婚したいと思いますか。(○は1つ)

1. 絶対したい 2. なるべくしたい 3. どちらともいえない
4. あまりしたくない 5. 絶対したくない

Q12-3 あなたには現在、交際相手または婚約者がいますか。(○は1つ)

1. 現在、婚約者がいる
2. 現在、交際相手がいる
3. 過去に交際相手がいたが、現在はいない
4. 現在も過去も特定の交際相手はいない

【全員の方に】

Q13 現在、一緒に住んでいるご家族は、あなたを含めて全部で何人ですか。一時的に別居している人は除いてお答えください。(○は1つ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人 7. 7人以上

Q14 現在一緒に住んでいる方を、あなたを含めて、すべてあげてください。(○はいくつでも)

1. あなた自身 2. あなたの夫 (パートナー) 3. あなたの子ども (養子・継子を含む)
4. あなたのお父さん 5. あなたのお母さん 6. あなたのお義父さん
7. あなたのお義母さん 8. あなたの祖父母 9. 夫 (パートナー) の祖父母
10. あなたの兄弟姉妹 11. 夫 (パートナー) の兄弟姉妹
12. その他の親族の方 (具体的に) 13. 親族以外の方 (具体的に)

【Q14で「3. あなたの子ども」に○をつけた方に】

Q14-1 お子さんは、何人いますか。(○は1つ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人以上

Q14-2 お子さんの年齢は、次のどれにあたりますか。6人以上いる場合は上の5人についてお答えください。(○それぞれ1つ)

第一子	1. 0歳～3歳未満	2. 3歳～未就学	3. 小学生	4. 中学生	5. 高校生以上
第二子	1. 0歳～3歳未満	2. 3歳～未就学	3. 小学生	4. 中学生	5. 高校生以上
第三子	1. 0歳～3歳未満	2. 3歳～未就学	3. 小学生	4. 中学生	5. 高校生以上
第四子	1. 0歳～3歳未満	2. 3歳～未就学	3. 小学生	4. 中学生	5. 高校生以上
第五子	1. 0歳～3歳未満	2. 3歳～未就学	3. 小学生	4. 中学生	5. 高校生以上

【全員の方に】

Q15 お宅では、現在、家事・育児はどのように行われていますか。次の中からもっとも近いものを1つ選んで○をつけてください。(○は1つ)

- | | |
|------------------------------|----------|
| 1. もっぱら一人が行っている | →Q15-1 へ |
| 2. 主に一人が行い、他の人が少し手伝っている | →Q15-1 へ |
| 3. 主に一人が行っているが、他の人もかなり手伝っている | →Q15-1 へ |
| 4. 複数の人がほぼ同等に分担している | →Q16 へ |
| 5. その他(具体的に) | →Q16 へ |

【Q15で「1. もっぱら一人が行っている」「2. 主に一人が行い、他の人が少し手伝っている」「3. 主に一人が行っているが、他の人もかなり手伝っている」と答えた方に】

Q15-1 お宅で家事・育児を「もっぱら」または「主に」行っているのはどなたですか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| 1. 自分 | 2. 夫(パートナー) | 3. 同居している自分の母 |
| 4. 同居している自分の父 | 5. 同居している義母 | 6. 同居している義父 |
| 7. 同居している祖父母 | 8. 同居している他の家族 | 9. 家族・親族以外の同居者 |
| 10. その他(具体的に) | | |

Q16 あなたは今後、お子さんを持ちたいですか。現在お子さんがいる方は、さらに持ちたいですか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------|-----------|
| 1. 近いうちに持ちたい | 2. いつかは持ちたい | 3. 持ちたくない |
| 4. 現在妊娠している | 5. その他 | 4. わからない |

Q17 あなたのこの1年間の健康状態は、おおむねいかがでしたか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|-----------|--------------|
| 1. たいへん良好 | 2. まあ良好 | 3. どちらともいえない |
| 4. やや悪い | 5. たいへん悪い | |

Q18 あなたは、現在の生活全体にどのくらい満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. かなり満足 | 2. どちらかといえば満足 |
| 3. どちらかといえば不満 | 4. かなり不満 |

◆あなたの考え方・ご意見についてうかがいます。

【全員の方に】

Q19 あなたは、次のような意見についてどのように思いますか。あなたのお気持ちにもっとも近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。(○はそれぞれに1つ)

あてはまる どちらかといえば どちらかといえば あてはまらない
あてはまる あてはまらない

- A. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである 1.....2.....3.....4
- B. 子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を
持たず育児に専念すべきだ 1.....2.....3.....4
- C. 家族を（経済的に）養うのは男性の役割だ 1.....2.....3.....4
- D. 公的に（国や地域や会社など）重要な決定を
する仕事は、女性より男性に適している 1.....2.....3.....4
- E. 家事や育児には、男性より女性が適して
いる 1.....2.....3.....4
- F. 男性も家事・育児を行うことは、当然である 1.....2.....3.....4
- G. できれば、女性も一生働き続けた方が
よい 1.....2.....3.....4
- H. 妻が勤めていれば、それに見合って、
夫（パートナー）も家事を分担すべきだ 1.....2.....3.....4
- I. 女性は結婚したら、家事・育児に専念
すべきである 1.....2.....3.....4
- J. あくせくせず、のんびりとした生活を
送りたい 1.....2.....3.....4
- K. 苦勞してでも、色々なことに挑戦して
いきたい 1.....2.....3.....4
- L. 自分にはひとよりすぐれたところがある 1.....2.....3.....4
- M. ひとよりも高い収入を得たい 1.....2.....3.....4
- N. 経済的に自立していれば、あえて結婚
する必要はない 1.....2.....3.....4
- O. 結婚したからといって、あえて子どもを
産む必要はない 1.....2.....3.....4
- P. 子どもがいても、夫婦仲が悪ければ離婚
したほうがよい 1.....2.....3.....4
- Q. ひとの役に立つ仕事がしたい 1.....2.....3.....4
- R. 自分に自信がある 1.....2.....3.....4
- S. この地域は、安全で安心して暮らせる
ところだ 1.....2.....3.....4
- T. この地域は、子育てしやすい社会環境が
整っている 1.....2.....3.....4
- U. この地域は、古くからの考え方やしきたり
に縛られることが多い 1.....2.....3.....4
- V. 地域活動には積極的に参加していきたい 1.....2.....3.....4

Q20 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。次の中からいくつでも○をつけてください。

1. 多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
3. 女性の声が反映されやすくなる
4. 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
5. 男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる
6. 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
7. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる
8. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
9. 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
10. その他（具体的に)
11. 特にない

Q21 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。次の中からいくつでも○をつけてください。

1. 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
2. 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
3. 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
4. 長時間労働の改善が十分ではないこと
5. 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
6. 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
7. 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
8. その他（具体的に)
9. 特にない

Q22 あなたは、女性の就労に対する企業や行政による支援としては、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

1. 保育・介護のための施設やサービス
2. 男女ともに取得しやすい育児・介護休業制度の啓発・促進
3. パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備
4. 労働条件における男女平等の推進
5. 女性の職種・職域の拡大
6. 募集・採用の男女平等の確立
7. 就業のための技能習得への支援や就職情報の充実
8. 再就職講座やセミナーなどの充実
9. 女性就労についての啓発や広報
10. 労働問題や苦情処理窓口の充実
11. 女性の起業支援
12. その他（具体的に)

*裏に続きます。

Q23 あなたは、女性の活躍推進の取組のため、どのような情報が特に必要になると感じますか。次の中からいくつでも○をつけてください。

1. 保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など） 放課後児童クラブに関する情報（場所、利用料など）
2. 介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）
3. 就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先など）
4. 起業・NPO活動のための情報（支援内容、相談先など）
5. 仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）
6. 出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報
7. 積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報
8. ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報
9. その他（具体的に ）
10. 特にない

Q24 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からいくつでも○をつけてください。

1. 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること
6. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
8. 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9. 男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
10. その他（具体的に ）
11. 特に必要なことはない

Q25 女性の活躍を進める上でのご意見・ご要望など、何でも自由にお書きください。

これで質問は終わりです。長時間ご協力いただきまして、ありがとうございました。

【資料1】 「女性の暮らしと働き方に関するアンケート調査」単純集計結果

◆あなたご自身についてうかがいます。

Q01 あなたの年齢は、満でいくつですか。 (単位：%)

平成29年9月1日現在でお答えください。 n=307

20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳以上	DK/NA	全体
15.0	19.2	30.3	34.5	0.7	0.3	100.0

Q02 あなたが最後に入学した(または在学中の)学校はどれにあたりますか。(○は1つ)

中学校・高等学校	高専・短大・専修学校	大学・大学院	全体
31.9	37.8	30.3	100.0

Q03 あなたの酒田市での居住歴について、次の中からあてはまるものをお答えください。(○は1つ)

酒田市出身、ずっと酒田	酒田市出身、進学で酒田市以外	酒田市出身、就職で酒田市以外	酒田市出身、転勤・転職で酒田市以外	進学のため、酒田市転入	就職・転勤・転職で酒田市転入	結婚、配偶者転勤・転職で酒田市転入	その他	全体
22.5	35.8	4.9	2.9	1.3	6.5	22.5	3.6	100.0

Q04 現在のお住まいは次のどれにあたりますか。(○は1つ)。

持ち家(一戸建て)	持ち家(マンション)	県営・市営住宅	民間借家・賃貸アパート	社宅・職員住宅	その他	DK/NA	全体
70.4	0.7	1.6	23.5	2.3	0.7	1.0	100.0

Q05 過去1年間のあなたの年収は税込みで次のどれに近いでしょうか。臨時収入、副収入も含めてお答えください。(○は1つ)

なし	100万円未満	100-200万円未満	200-300万円未満	300-400万円未満	400-600万円未満	600-800万円未満	800-1000万円未満	1000万円以上	DK/NA	全体
11.7	15.1	30.9	25.5	11.4	5.0	0.3	0.0	0.0	2.9	100.0

◆あなたのお仕事についてうかがいます。

Q06 あなたは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

〔有業〕正社員・正職員	〔有業〕非正社員・非正職員	〔有業〕会社・団体の役員	〔有業〕自営業	〔有業〕その他	〔無職〕主婦	〔無職〕学生	〔無職〕その他	DK/NA	全体
49.5	27.7	0.0	4.9	0.3	10.1	4.2	2.6	0.7	100.0

【Q06で〔有業〕と答えた方に】

Q06-1 あなたの現在のお仕事の内容は、次のどれにあたりますか。あてはまるものが複数ある場合は、主なもの1つに○をつけてください。 n=253

教師・保育士・看護師	専門・技術職	管理職	事務・営業職	販売・サービス・保安職	農林漁業職	生産・輸送・建設・労務職	その他	DK/NA	全体
13.8	14.6	0.0	28.5	29.6	2.4	8.7	2.0	0.4	100.0

Q06-2 あなたの職場の特徴についてうかがいます。あてはまるものいくつかでも○をつけてください。(複数回答) n=253

男女の区別なく昇進・昇格できる	育児休業制度と両立支援制度が活用できる	個人的な生活時間の確保に配慮	残業・休日出勤が少ない	柔軟に働ける環境	女性の先輩が管理職
37.2	46.2	35.6	31.6	3.6	39.1
仕事と子育てを両立する先輩がいる	やりがいがあると思える仕事ができる	仕事の負担が重い	残業・休日出勤が多い	教育・訓練機会が少ない	男女で仕事内容が分かれている
51.0	33.6	30.0	23.7	13.8	9.1
女性が働くことへの上司や男性の理解が不十分	どれにもあてはまらない				

Q06-3 あなたの現在の就業時間は、通勤時間を含めて、1日何時間くらいですか。働いている日について、残業時間や昼休みなどの休憩時間も含めた平均的な時間をお答えください。(○は1つ) n=253

就業していない	2時間未満	2-4時間未満	4-6時間未満	6-8時間未満	8-10時間未満	10-12時間未満	12時間以上	その他	DK/NA	全体
0.4	0.0	1.6	8.3	14.2	49.6	17.4	4.0	2.0	2.4	100.0

Q06-4 あなたは、現在の職場で昇進したいと思いますか。あてはまるものを選んでください。(○は1つ)。

※「昇進」とは、現在より権限や責任が大きい仕事につくことをいい、非正社員の方が正社員に登用されることを含みます。 n=253

昇進したい	昇進したくない	現在の職場で昇進は難しい	昇進制度や昇進ポストがない	わからない	DK/NA	全体
18.2	30.0	16.6	11.5	20.2	3.6	100.0

【全員の方に】

Q07 あなたは離職した経験がありますか。あてはまるものいくつかでも○をつけてください。

※学生のアルバイトは除いてお答えください。(複数回答)

結婚のため離職	出産・育児のため離職	介護・看護のため離職	転職・起業のため離職	離職したことはない	その他
17.9	21.2	0.7	26.7	39.4	9.4

Q8 あなたは将来どんなキャリアを歩みたいと考えていますか。次の中からあてはまるものを選んでください。(○は1つ)

今の会社で管理職・役員	今の会社で専門職	今の会社で定型的・補助的業務	昇進せずこのまま	他の会社に転職	独立して事業を起こす	成り行きにまかせたい	フリーランスで仕事	仕事はしない	あまり考えたことがない	その他	DK/NA	全体
4.2	16.9	7.5	7.2	14.7	3.6	18.2	9.1	0.0	15.6	4.6	3.6	100.0

Q9 あなたは、働くことに対して自信がない、不安だと思うことはありますか。あてはまるものいくつかでも○をつけてください。(複数回答)

自身の能力が通用するか	対人関係で上手くやれるか	経済的に自立できるか	ワークライフバランスを保てるか	家事とのやりくりができるか	健康でいられるか	固定観念をくつがえせるか	その他、自信がないことがある	自信がないと思うことはない
42.7	41.4	32.6	37.8	50.8	40.4	5.2	3.6	3.9

Q10 一般的に職場における男女の地位は平等になっていると思いますか。次の中からあなたの気持ちにもっとも近いものをお答えください。(○は1つ)

男性のほう が非常に 優遇	どちらか といえば 男性が 優遇	平等	どちらか といえば 女性が 優遇	女性のほう が非常に 優遇	わからない	DK/NA	全体
7.5	42.0	28.3	4.2	0.3	16.3	1.3	100.0

Q11 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。(○は1つ)

結婚するまでは職業をもつ	子どもができるまでは職業をもつ	ずっと職業を続ける	子どもができたならやめ大きくなったらフルタイム	子どもができたならやめ大きくなったらパート	女性は職業をもたないほうがよい	その他	DK/NA	全体
3.3	3.6	64.5	8.5	8.5	0.3	10.1	1.3	100.0

◆結婚や、ご家族のことについてうかがいます。

Q12 あなたは結婚していますか。(○は1つ)

結婚している	結婚していないがパートナー	離別	死別	未婚	DK/NA	全体
55.7	2.3	5.5	0.3	35.5	0.7	100.0

【Q12で「1. 結婚している」「2. 結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方に】

Q12-1 あなたとあなたの夫(パートナー)とのお二人のご様子について、次の中からもっとも近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。(○はそれぞれに1つ)

n=178

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	DK/NA	全体
A. 私は夫(パートナー)の心配ごとや悩みごとを聞いている	34.3	43.8	14.6	6.7	0.6	100.0
B. 私は夫(パートナー)の能力や努力を高く評価している	42.7	41.0	13.5	2.2	0.6	100.0
C. 私は夫(パートナー)に助言やアドバイスをしている	24.7	44.9	24.7	5.1	0.6	100.0
D. 夫(パートナー)は、私の心配ごとや悩みごとを聞いてくれる	38.8	39.9	13.5	6.7	1.1	100.0
E. 夫(パートナー)は、私の能力や努力を高く評価している	30.3	40.4	21.9	5.1	2.2	100.0
F. 夫(パートナー)は、私に助言やアドバイスをしてくれる	36.5	34.8	20.8	7.3	0.6	100.0

【Q12で「3. 離別」「4. 死別」「5. 未婚」と答えた方に】

Q12-2 あなたは今後、結婚したいと思いますか。(○は1つ)

n=127

絶対したい	なるべくしたい	どちらともいえない	あまりしたくない	絶対したくない	DK/NA	全体
28.3	39.4	15.7	9.4	6.3	0.8	100.0

Q12-3 あなたには現在、交際相手または婚約者がいますか。(○は1つ) n=127

現在、婚約者がいる	現在、交際相手がいる	過去に交際相手、現在ははいない	現在も過去も交際相手はいない	DK/NA	全体
3.1	30.7	36.2	28.3	1.6	100.0

【全員の方に】

Q13 現在、一緒に住んでいるご家族は、あなたを含めて全部で何人ですか。一時的に別居している人は除いてお答えください。(○は1つ)

1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	DK/NA	全体
7.2	13.4	20.2	21.2	16.3	11.1	10.4	0.3	100.0

Q14 現在一緒に住んでいる人を、あなたを含めて、すべてあげてください。(○はいくつでも)

あなた自身	あなたの夫(パートナー)	あなたの子ども	あなたのお父さん	あなたのお母さん	あなたのお義父さん	あなたのお義母さん	あなたの祖父母
99.7	56.4	49.5	32.9	38.1	16.0	18.9	14.7
夫(パートナー)の祖父母	あなたの兄弟姉妹	夫(パートナー)の兄弟姉妹	その他の親族	親族以外	DK/NA	全体	
8.5	15.3	2.6	2.6	0.3	0.3	100.0	

【Q14で「3. あなたの子ども」に○をつけた方に】

Q14-1 お子さんは何人いますか。(○は1つ)

n=152

1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	DK/NA	全体
44.1	36.8	13.8	4.6	0.0	0.7	0.0	100.0

Q14-2 お子さんの年齢は、次のどれにあたりますか。6人以上いる場合は上の5人についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

n=152

	0-3歳未満	3歳-未就学	小学生	中学生	高校生以上	全体
第一子	27.6	23.7	32.2	11.8	4.6	100.0
第二子	32.9	25.9	34.1	7.1	0.0	100.0
第三子	37.9	24.1	37.9	0.0	0.0	100.0
第四子	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0	100.0
第五子	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0

n=152

n=85

n=29

n=8

n=3

【全員の方に】

Q15 お宅では、現在、家事・育児はどのように行われていますか。次の中からもっとも近いものを1つ選んで○をつけてください。(○は1つ)

もっぱら一人が行う	主に一人、他の人が少し手伝い	主に一人、他の人もかなり手伝い	複数の人がほぼ同等に分担	その他	DK/NA	全体
19.2	36.8	22.8	17.6	0.7	2.9	100.0

【Q15で「1. もっぱら一人が行っている」「2. 主に一人が行い、他の人が少し手伝っている」「3. 主に一人が行っているが、他の人もかなり手伝っている」と答えた方に】

Q15-1 お宅で家事・育児を「もっぱら」または「主に」行っているのはどなたですか。(○は1つ)

n=242

自分	夫(パートナー)	同居している自分の母	同居している自分の父	同居している義母	同居している義父	同居している祖父母	同居している他の家族	家族・親族以外の同居者	その他	DK/NA	全体
52.5	1.7	32.2	0.8	7.0	0.0	2.1	0.0	0.0	1.2	2.5	100.0

【全員の方に】

Q16 あなたは今後、お子さんを持ちたいですか。現在お子さんがいる方は、さらに持ちたいですか。(○は1つ)

近いうちに持ちたい	いつかは持ちたい	持ちたくない	現在妊娠している	その他	わからない	DK/NA	全体
22.5	28.7	20.5	16.6	3.3	8.1	0.3	100.0

Q17 あなたのこの1年間の健康状態は、おおむねいかがでしたか。(○は1つ)

たいへん良好	まあ良好	どちらともいえない	やや悪い	たいへん悪い	DK/NA	全体
11.7	58.0	15.0	11.1	3.9	0.3	100.0

Q18 あなたは、現在の生活全体にどのくらい満足していますか。(○は1つ)

かなり満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	かなり不満	DK/NA	全体
9.4	62.5	21.5	5.5	1.0	100.0

◆あなたの考え方・ご意見についてうかがいます。

【全員の方に】

Q19 あなたは、次のような意見についてどのように思いますか。あなたのお気持ちにもっとも近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。(○はそれぞれに1つ)

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	DK/NA	全体
A. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである	1.6	26.4	36.5	35.2	0.3	100.0
B. 子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念すべきだ	8.8	28.3	32.9	29.6	0.3	100.0
C. 家族を(経済的に)養うのは男性の役割だ	6.8	40.7	30.3	20.2	2.0	100.0
D. 公的に(国や地域や会社など)重要な決定をする仕事は、女性より男性に適している	5.2	24.8	43.6	25.1	1.3	100.0
E. 家事や育児には、男性より女性が適している	11.7	53.1	22.8	10.1	2.3	100.0
F. 男性も家事・育児を行うことは、当然である	49.5	43.3	4.6	1.3	1.3	100.0
G. できれば、女性も一生働き続けた方がよい	32.2	45.3	15.6	4.2	2.6	100.0

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	DK/NA	全体
H. 妻が勤めていれば、それに見合って、夫(パートナー)も家事を分担すべきだ	60.3	35.2	2.6	1.0	1.0	100.0
I. 女性は結婚したら、家事・育児に専念すべきである	2.9	12.7	42.7	40.7	1.0	100.0
J. あくせくせず、のんびりとした生活を送りたい	52.1	37.5	8.8	1.0	0.7	100.0
K. 苦勞してでも、色々なことに挑戦していきたい	13.7	30.3	45.0	9.8	1.3	100.0
L. 自分にはひとよりすぐれたところがある	4.2	22.5	48.9	23.5	1.0	100.0
M. ひとよりも高い収入を得たい	18.6	43.6	29.0	7.5	1.3	100.0
N. 経済的に自立していれば、あえて結婚する必要はない	9.8	23.8	38.8	26.4	1.3	100.0
O. 結婚したからといって、あえて子どもを産む必要はない	17.6	33.9	31.3	16.0	1.3	100.0
P. 子どもがいても、夫婦仲が悪ければ離婚したほうがよい	20.5	41.7	27.0	9.4	1.3	100.0
Q. ひとの役に立つ仕事がしたい	38.8	45.6	12.4	2.6	0.7	100.0
R. 自分に自信がある	3.3	19.2	45.9	30.9	0.7	100.0
S. この地域は、安全で安心して暮らせるところだ	24.1	59.9	10.4	4.9	0.7	100.0
T. この地域は、子育てしやすい社会環境が整っている	8.1	42.3	37.1	10.7	1.6	100.0
U. この地域は、古くからの考え方やしきたりに縛られることが多い	20.5	37.1	35.5	4.9	2.0	100.0
V. 地域活動には積極的に参加していきたい	6.2	35.5	43.6	13.7	1.0	100.0

Q20 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるるとどのような影響があると思いますか。次の中からいくつでも○をつけてください。

(複数回答)

多様な視点で、新たな価値や商品・サービス	人材・労働力確保により社会全体に活力	女性の声反映されやすくなる	男女問わず優秀な人材が活躍できる	男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
60.3	31.3	62.9	59.3	50.2	30.9
仕事以外のことが優先され、業務に支障を来す	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	保育・介護など公的サービスが増大し、家計負担及び公的負担が増大	その他	特になし	
4.2	1.3	17.9	1.3	3.6	

Q21 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害になるものは何だと思えますか。次の中からいくつでも○をつけてください。

(複数回答)

現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ない	女性自身がリーダーになることを希望しない	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しない	長時間労働の改善が十分ではない	企業などでは、管理職になると広域異動が増える	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではない
21.5	17.6	39.1	42.3	23.1	55.4
保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではない	その他	特になし			
51.5	1.3	6.2			

Q22 あなたは、女性の就労に対する企業や行政による支援としては、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

(複数回答)

保育・介護のための施設やサービス	男女ともに取得しやすい育児・介護休業制度の啓発・促進	パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備	労働条件における男女平等の推進	女性の職種・職域の拡大	募集・採用の男女平等の確立
71.7	64.8	42.7	21.5	20.5	15.3
就業のための技能習得への支援や就職情報の充実	再就職講座やセミナーなどの充実	女性就労についての啓発や広報	労働問題や苦情処理窓口の充実	女性の起業支援	その他
9.8	5.5	7.2	7.5	11.1	2.3

Q23 あなたは、女性の活躍推進の取組のため、どのような情報が必要になると感じますか。次の中からいくつでも○をつけてください。

(複数回答)

保育所や幼稚園、放課後児童クラブに関する情報	介護・家事の支援サービスに関する情報	就職・再就職のための職業訓練に関する情報	起業・NPO活動のための情報	仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報	出産・育児して就業を継続している女性のモデル事例に関する情報
69.7	48.9	30.0	8.8	58.3	33.2
積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報	ワーク・ライフ・バランス推進や働き方の見直しの実践例に関する情報	その他	特になし		
23.8	34.9	2.0	2.9		

Q24 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からいくつでも○をつけてください。

(複数回答)

男性が家事・育児などに参加することへの男性自身の抵抗感をなくす	男性が家事・育児などに参加するへの女性の抵抗感をなくす	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる	年配者や周囲が夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重	社会の中で、男性による家事・育児などについても評価を高める	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解
69.1	18.9	59.0	45.6	51.8	64.5
労働時間短縮、ICT利用等で仕事以外の時間を多く持てるようにする	男性の家事・育児の啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修	男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)作り	その他	特に必要なことはない	
34.5	16.9	29.3	2.0	2.0	

Q25 女性の活躍を進める上でのご意見・ご要望など、何でも自由にお書きください。

記述あり	記述なし	全体
27.7	72.3	100.0

【資料3】自由記述一覧

Q07 あなたは離職した経験がありますか。→6. その他（具体的に)

- ・ストレスによる体調不良のため
- ・体調不良により
- ・療養で離職
- ・妊娠中に職場の上司からのいやがらせで流産しそうになったので離職した
- ・精神的なもの
- ・体調不良により離職せざるを得なかった
- ・障害を持ち離職した
- ・体調不良のため
- ・ストレス
- ・経営者のモラハラがあった
- ・倒産のため
- ・会社からの解雇
- ・契約満了にて
- ・日々雇用の期限切れなどで現在の職に就くまで離職した
- ・嫌になった為、会社がなくなった為
- ・短期契約の終了による離職、会社の事業縮小による離職
- ・夫の転勤のため
- ・夫転勤のため
- ・夫の転職による引越しの為
- ・就職経験なし
- ・親の介護のため離職
- ・通信教育の活動の為、1年間のみ
- ・引越しのため離職
- ・Uターンのため離職

Q09 あなたは、働くことに対して自信がない、不安だと思うことはありますか。→8. その他、自信がないと思うことがある（具体的に)

- ・家族やまわりの理解を得られるか
- ・人数がとても少ない職場のため、有給休暇が全く取得できない。妊娠しても育休産休取得以前に体調不良などで会社を休めるのかとても不安
- ・子供の急病時は、自分が休まなければならない事
- ・開業することになるので（実家を継ぐ）次の妊娠・子育てと両立できるか
- ・自分の時間がない
- ・今の職場では先が見えないので考えられない
- ・家庭と子育てとの両立
- ・持病のため、働くことが困難だから、持病を持ちながら働けるか不安
- ・新しいことを覚えられるか不安

Q11 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。→7. その他（具体的に)

- ・各々の考え方である
- ・仕事は子どもが生まれるまでして、生まれたら子育てを楽しんで、趣味→仕事をし、子

もが大きくなったらガッツリ働けるように技術を身につけておく

- ・その時に合わせて自由に働き方を変えたい
- ・その人その人で違うので一概には言えない
- ・子供の有無関係なく自分が望む仕事環境を選べばよい
- ・子供ができたらずパート、大きくなったらフルタイムで働く
- ・好きなようにしたらいいと考える
- ・子供との時間おもちながら両立できればいい
- ・子供が出来たら休業させてもらい、大きくなったら復職できればいい
- ・職業（特に専門職やライセンス等ある場合）を辞める必要はないが、妊娠・子育てにはどうしても女性に負担が多くかかるので両親や地域の援助が不可欠。ない場合は難しいと思う。
- ・その家庭や個人の自由でいいと思う。
- ・その人の自由だと思う
- ・お金に余裕があるなら子供が小さいうちは離職したいに
- ・人それぞれでいい
- ・働きたい人、家庭に入る人はそれぞれ個人の考えで決めるべき
- ・仕事を続けるのもやめて主婦をするのもどちらも立派な仕事だと思う。
- ・何を選んでもいい
- ・個人の自由
- ・できれば④だが、金銭面で③を選ばざるを得ない
- ・子供が出来ても仕事は続けたいが、パートタイムになる等で
- ・経済的に余裕があれば子供が大きくなるまで家にいてもいいと思う
- ・本人の自由で良い
- ・自分に合った選択をすればよい
- ・家庭の状況に応じて決めればいいと思う。
- ・共働きがあたり前なので仕事をしないのは考えられない
- ・こういう問題自体、男女平等ではない
- ・その人その人の自由。こうあるべきという考えはない
- ・不妊治療のため
- ・どちらでもいい。本人の希望通りになるのが良い
- ・その時の状況に合わせて働くか働かないか、わからないもの

Q20 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（複数回答）→11. その他（具体的に

- ・女性の方が人の気持ちや女性の立場をより理解できやすいと思う
- ・感情的になりやすいのも女性。忽然とした場では支障をきたすことも多くなると思う
- ・女性のリーダーになる人次第だと思う。女性がリーダーになったからと云々の影響はないと思う
- ・女性の活躍で印象は変わるかもしれないが、結局は政治の力に負ける。何も変わらない。

Q21 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。（複数回答）→8. その他（具体的に

- ・他の女性からのねたみ

- ・女性は根本的に仕事より家庭を優先するため。またそれは良いことであり、それによって女性リーダーが増えなくとも問題はない
- ・産休・育休で仕事を離れなければいけない事自体がキャリアアップにはつながりにくい原因だと思う
- ・世の中全体がそういった雰囲気ではない。

Q22 あなたは、女性の就労に対する企業や行政による支援としては、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで回答) →12. その他(具体的に)

- ・家庭を持つ女性への仕事量、仕事内容の配慮(特に妊娠中等)
- ・職場内の業務分担の見直し、休みやすい環境・雰囲気づくり
- ・保育・介護を利用する際の家計負担が減ること
- ・制度があっても使えなければ意味がない。職についても続かなければ雇用する側、される側のマイナスになるので、現状の見直しも必要なのではないのでしょうか?パートだけでなく正規も。
- ・啓発・促進・広報をしたとしても男性の耳に入る努力をしなければ何も意味がないと思う。いくらポスター等を作成しても結局は事務方しか見ない。
- ・転勤族の妻への支援。転勤のたび正社員として働ける保障がなく、収入が減少する。

Q23 あなたは、女性の活躍推進の取組のため、どのような情報が特に必要になると感じますか。(複数回答) →9. その他(具体的に)

- ・好きな仕事を頑張っている人の見本の情報を提供してほしい。自分も頑張ってみよう!と思えるような話を聞いてみたいです。
- ・いい事例を共有すると共に、企業へ直接実践の呼びかけをしてほしいです。情報を得られるところを一本化してほしいです。
- ・酒田市の取り組み、今後の動向を知りたい
- ・現時点では情報はあり余っている。問題となっているのは、取得と出費の問題ではないか?そちらを改善すべき

Q24 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答) →10. その他(具体的に)

- ・男性にもわかる(やりやすいように)マニュアル化して無料配布したら良いと思う
- ・家事は面倒→楽しいに変わる。ちょっとした何かがあるとよい
- ・子育てや介護休暇を取得した場合の収入の確保。産休・育休のようにではなく、10割の支給
- ・PTA活動といった、平日に時間を使う活動の在り方を見直す

Q25 女性の活躍を進める上でのご意見・ご要望など、何でも自由にお書きください。→回答者は85名(27.7%)

- ・多くの主婦と企業が参加し、生活向上や協力、情報交換、悩みの相談等ができるネットワークのコミュニティサイトがあったら良いと思う。ストレスや体調不良の人でも働ける職場環境が欲しい。(ハローワークだと求人紙のみだし、転職サイトでも職場の良い所しか伝えてもらえず入ってみたら、人間関係で苦労した経験があり、悪い所もちゃんと伝えてほしい。
- ・女性だからという言葉の奥に尊重さがあれば良い。同じように私達女性も男性のことを尊重できたらいいと思う。

- ・保育園をもっと入りやすくしてほしい。親が働いてる働いてないで動きまわらなきゃいけないのがとても大変
- ・結婚、出産、子育てが仕事の「さまたげ」にならない様に、家族の協力、社会の理解と協力を深めるたくさんの選択肢を設ける。個人の考えを尊重する社会を構築する
- ・介護の現場で働いているが、そもそも介護は女性が多いのであまり女性の活躍について考えたことがなかった
- ・出産、子育てのときが一番両立に悩むときだと思います
- ・保育園代の為に働いている、などとならないように子育て支援内容をもっと充実させて欲しい。今からは分からない（もう少し子供が大きくなったら働きたい）という人が働かない＝(イコール)悪(なまけている)と思われることをなくすため市でも働く女性、家で家事をする女性どちらもがんばっているということを発信すべき（現に体調悪く、家で子育て専念していたら、働く女性や年配の方になまけていると言われたので）
- ・介護を理解し、勤務時間、有休などを考えてくれる社会が増えるといいが…パートやアルバイトだと福利厚生がないので、将来が不安。酒田市はもう少し福利厚生がある会社を増やすべきです
- ・①子供を産む人が少なくなり、少子問題がありますが、やはり、酒田市でも第3子～無料保育が開始になりすごく助かっています。これはこれからも続けてほしいです。
- ・②児童手当金についてももう少し増やしてほしいという声もあります。（安いです）保険代も中学生で終了となるのももう少し拡大して20歳（19歳）までは、無料にしてほしいと言っております。（お金がかかる時期なので）。酒田市も女性の活躍というよりは、こういう子育て、子どもを産んでからの方が女性にとっては心配なことがたくさんあり、今の時代は経済的（お金、年金問題）などあるので、今の給料では子供も育てられない時代です。なのでそういう以前の問題を考えていかないと先のこと、環境・サービスが良くならないと女性が家庭を持つには先のことは考えられないです。酒田市も頑張ってみ直して頂きたいです。（子供たちが安心して遊べる場所も欲しい。酒田市では共働きが多いと思いますヨ。預けられる公共施設をもっとほしいですね〜。）アンケートいただき助かります。子育てをもっとらくに♡♡
- ・女性が学校を卒業して酒田市内に就職したいが、就労場が少ないために県外都会へ就職している。市内に就労場を確保してほしい。
- ・結婚していても求婚でも子供がいてもいなくてもいくつだろうと立派な一人の人間であり女性であることを地域全体で認めてほしい。色々あっていいんだということを理解してほしい。一人の人間として堂々と他人と比べず生活できることが何よりだと思います。
- ・フルタイムで働きながら子育てをするのに精一杯でこれ以上の活躍を言われても負担しか感じない。女性も働きたくて働いている人は少なく、共働きでないと生活が成り立たないのでは、仕方なくという人が多いと思う。私もできることなら仕事を辞めて育児に専念したい。でも、家のローンや車のローンもあるし。
- ・私自身、来年度からは仕事をしたいと考えていますが、家族に様々な負担がかかることが心配です。（親…家事や育児面で負担・子…寂しくないか）周りの人に迷惑をかけてしまうことが不安で仕方ないです。
- ・もっと育児しやすい環境をつくるべき
- ・男性トイレにオムツ交換台ってあるんですか？ドライブスルーなどで利用できたらちょっと便利。妊婦体験以外にテレビで出川がやってた出産体験（電気を流す）も是非やってほしい。やれる所があれば…。つわりの大変さ、産後の体の変なところの理解、子どもの病気に対してどんな職場でも休みがとりやすい環境だと良い。（福祉系とか人件費ギリギリで大変なイメージ）出産、子育て中の人の職場に補助金降りるとか。…すいません。子

育て中心のコメントばかりになってしまいました。社会・国全体でもっと考えていけたら…。

- かなり女性率の高い現在の職場でも、管理職となるとかなり少ない。しかし家事に関わらない女性はほとんどいないため。その事は自然であり無理に改める必要性は感じない。適材適所が出来ていれば良い。完全な平等というのは非現実的であり、特にいい事でもないとおもっている。
- 正社員なのに有給休暇もないのが不満。労働基準監督署などもっと就業環境を調べたりしてとりしまったり注意してほしい。内部告発のようなことはしづらいので。
- 女性の働き方のビジョンをもとわかりやすく、誰でも社会の一員として働けるように一人一人に合った働き方の提案をしてくれるところがあってもいい。
- 3歳未満児が入園 or 入れる保育園を増やしてほしい。または保育士を増やして未満時のクラスの受け入れをしてほしい。
- 子供が出来るとパートに落とされるなど、会社自体の考えを変えてほしい。お局の女性が幅をきかせていて、嫌味ばかり言われるので、若い女性が働きやすい環境づくりが、活躍するためには必要だと思う。
- 私は皮膚科の先生からは、ハウスダストアレルギーのため、きれレ先生からは花粉症あったきれい好もる自分でもいたいし、みんなに気を使って掃除洗たく物をしたいしていきたい
- 自己を認め、他者も認める社会造りが必要と考える。少しでも人と異なるところが見えると“うわさ”や“悪口”大勢でたたく風習があるように思える。もっと、笑い、怒り、泣き、おどり、そんな様子があたり前にある街がいい。
- 家族や職場の方の理解や協力が大切だと思います。
- 男女平等となってきた中、まだmだ差別する人も中にはいる為、経営者、企業の管理職以上の方を対象に「男女平等セミナー」をもっと開催すべきだと思う。女性が発信しやすい、労働環境も必要だと思う。
- 育児中の働く女性、もしくは働きたくても働けない女性の多くは「子供の急病時」の悩みを抱えています。企業・職場側には休みやすい環境を求める一方、市には「病児保育・病後保育」の充実を推進して頂きたいです。安心して働ける事は、地域全体の活性化につながると思います。女性、お母さんが安心できる明るい酒田になってほしいです。
- 女性が活躍する社会の現実に向けて、酒田市が変わっていくことを楽しみにしております。しかし、どんな取り組みを行っているか今後どのような取り組みを予定しているのかなどの情報をもっと身近に感じたいと思います。情報発信の面も一度見直していただき、市民が市政に積極的にかかわれる機会を作っていただきたいと思います。
- 私の職場には男性（30代～50代）と未婚女性（30代）がいます。正直子供がいる既婚の私の気持ちをわかってもらえていないような気がします。学校行事や部活動の大会などで有休を出すと特に未婚女性には少し嫌な顔をされます。有休で休む前は迷惑がかからないようにそれなりに段取りをして休んでいるのに…。他の職場の方はどうなのか分かりませんが、私の職場は有休等に関してはまだまだ環境が整っていません。なので急な病気で休むことになったらどうなるのだろうか？といつも思っています。
- 特に女性だから活躍！という考えはない。男女で共に仕事・生活ができればそれでいいと思う。ただ女だから、男だから〇〇をしなければならないという考えはやめてほしい。
- いろんな人（職種）が集まる女子会のような会などがあっても楽しそうだなと思います。年齢関係なく。そこにパートナー・旦那さんなどが回数を重ねたころに来られて、情報交換などが出来ればもっともっと楽しくなるのかな〜と。
- 正職員であっても、育休中、産休中等の間だけでも内職などが可能になると経済的にも少

しはゆとりが出来るかと思う。※内職のできない職場が多いので。

- ・子育てをしながら仕事をしている女性が多くいる地域ですので、母親支援を充実してもらいたい。独身なら出来る仕事、社会に貢献できることがあっても子育てする人は時間が限られていたり縛られることが多くあります。ですので、もっと子育てしながらも自分以外に子供が安心して生活できる場所や人が必要だと感じます。保育・教育に力を入れていただきたい。
- ・学歴の違いなのかわからないが、同等の仕事もしくはそれ以上の仕事内容なのに女性が給料少ないのはいかがなものかと思います。
- ・新たな能力、技術を身になるための講座、同世代の相談しあえる仲間（20代前半の人がいない）、コミュニティ
- ・産休・育休などだけではなく、妊活のための休みや補助金などがあったら良いと思う。産休・育休の間の社会保険の補助はあるのに国民健康保険の補助がでないのも気になります。
- ・就職活動の面接や、就職後、恋人がどこの人かを聞かれたり、酒田の人と結婚しなさい、人口を増やしてねと言われるとかなしい。
- ・私は現在実家の飲食店で正社員（ホールスタッフ）として働いています。勤務時間が夕方～夜（23時ごろ）のため、若い女性や主婦層のスタッフが少なく、今後自分が家庭を持った時の不安が大きいです。やはり、結婚、出産、子育てをする上で就労時間の問題は大きな壁なのでしょう。サービス業に従じる人も少なくなっており、今後の仕事に不安を抱えています。
- ・私は他県に正社員で働いていましたが、結婚を期に退職し酒田に来ました。当時の会社では昇任がきまっていたが年齢的にも結婚を優先し仕事を辞めました。こちらに来てから、面接をたくさん受けましたが、結婚してすぐの時は、「子供の予定はあるか?」「子供が生まれて病気したらどうするのか?」など何度も聞かれ、あのまま他県にいれば約束されていた職場もまた1からと思うと何度もがっかりしていました。こうなってみると、両親と同居しているかどうかでも大事なのではないかと思いました。やはり周りの協力がないと女性の社会進出は難しいですね。
- ・女性はやはり子を産むという性からやはり結婚・出産・子育ての問題を切り離して考えることは難しいと思います。安心して結婚・出産・子育てができる暮らしが出来れば良いと思います。その為にはやはり人生の先輩の力を借りるべきだと思います。
- ・私は21歳の時に統合失調症の精神疾患を患いました。そして、統合失調症や精神疾患の周囲の認知度が低く、求人募集に「心身ともに健康な方」という条件がある会社もあり、社会復帰や復職しづらい社会になってるなと感じました。そういった精神疾患患者への社会の理解も女性の活躍を進めるうえで必要ではないかと思います。
- ・国家資格を持っているのに給料が安い。私は母子家庭で子供の行事、病気で休みを取ると賞与から引かれていく。休みたくて休んでいるわけではない。嫌味を言われる。甘えるわけではないが、もっと理解してほしい。
- ・「男性だから、女性だからこうあるべき」といった固定観念を持つ人も多くいます。性別にとらわれず社会の中で個人として尊重され、その適性を判断されるようになっていけば、能力に応じて女性も男性も同じ評価で活躍することが出来ると思います。そのために、子供のころから個人を尊重し、多様な考え、生き方を受け入れられるようになることが理想です。道徳の時間などで話し合い、考えさせる機会を作ってもいいと思います。
- ・男女問わず、能力のある人がリーダーになるべきで、「女性を必ずリーダーにするために」女性リーダーを選ぶのは違うと思う。今の時代は、男性も大変な時代であると思う。女性の中には、女性であることをうまく理由にして図々しくしている人もいるように感じる。

そのような女性を見ると、同じ女性として恥ずかしい。

- ・女性が結婚・出産・育児を経て再就職できるように企業や行政で支援したり、男性も働くことの大変さが分かると思うので家事・育児に少しでも積極的に参加してもらえたらと思います。
- ・母子家庭で低所得の方に少しでも余裕のある暮らしが出来るようにしてほしい。(サービスマや支援など)
- ・役職(管理職)になることは女性にとってすごくプレッシャーになることだと思います。私は役職にはなりたくないけど、働き続けたいと思います。生活のためにも。ただこれから女性の役職は増えていくんだと思うと、そうであればその準備を前から少しずつしていく必要があるのかなと感じます。急に役が付いて、心に大きな負担をかけてしまわないよう、研修や実際の女性管理職の話、例えば仕事だけではなく、プライベートにおける家庭との両立など具体的なことまでどんどん若手に話してもらおうなど、リアルなロールモデルとして参考になるのかなと思います。
- ・私自身不妊治療により定職に就くことがなかなか難しかったので、治療をオープンにし、休みがとりやすくなる職場の環境を整えたいと思う。
- ・女性、男性問わず、人間として魅力がある人が活躍し、よりよい社会を作っていってほしいと思います。女性の活躍は、同性として嬉しいことです。私の職場では男女差は感じないのですが、こういったアンケートがくるということはまだ他のところでは差があるのだなあと感じたところです。
- ・働きながら、不妊治療などの休みを取りやすくてできる制度などもあれば、働き続けていく中で、私生活もより充実していくような気がします。
- ・都会では、週休3日の企業が増えてきているというニュースを見ました。子供を持ちながら働く女性(お母さん)は、子を持つ前の給料と変わらない給料で“週休3日”という法律ができればお母さんたちに少し余裕が生まれるのかもしれませんが。あとは、リタイア世代の、つまり、人生の先輩方はみなさんまだまだ若いので、その先輩方に子育て世代をもっと助けてもらおうと良い気がします。地域で子供たちを育てる。昔の地域のような“子供は地域の宝物”だった年代を見直してみる！若い人も年上の人にもっと頼る！
- ・中小企業の副業のすすめ
- ・政治家の男女比を平等にする必要があると思う。また、政治家への年齢制限(定年制)をつけて若い人が政治に参加しやすくなるなど、今の時代に合った働き方への考えがもっと幅広くなっていけばいいと思う。
- ・男性女性とわけずにその人1人1人の意見を尊重し、手助けできる周りの人の余裕が必要だと思う。人に余裕をもたせるために、保育や介護の支援サービスが時間にしばられずに利用できるとういなどと思う。
- ・女性も男性もお互いを尊重し合える未来になってほしいと思います。アンケートを通していろいろと考えるきっかけになりました。ありがとうございます。
- ・保育園・幼稚園にもっと入園したい人がいるのに、働いていないと点数が低く入れない。→預け先がないので働けない。→入園できない。という矛盾が感じられます。実際にそういう話も聞きます。預けるところが減っているのに、産もうとは思えません。仕事と育児を切り離さず一緒に考えていきたいです。
- ・子育てしづらい。お金の面ですごく不満。この結果がどう生かされるのか、アンケート回答者には通知すべきだと思います。
- ・パートでもう少し給料(時給)が増えれば…正社員と同じ仕事をして時給880円、昇給1円では割に合いません。
- ・女性も仕事を続けるのは大いに良いことだと思うが、だからといって専業主婦ではダメ

だというような雰囲気になるのはいけないと思う。結婚・出産・育児の後でも仕事を得られるような社会になってほしい。

- まだまだ業種によっては妊娠・出産での離職を迫られることが多いのでどうにかならないのか？また再就職したくても、子供を保育園に預けるのも仕事をしていないと預けられないのはどうなのか…。仕事が決まっても保育園が決まらなければ仕事にも行けなくなる。
- 男女平等社会の推進といっても、女性が現在の男性のように（同様に）働けるようにというわけではありません。妊娠・出産・授乳が出来るのは女性だけ。それなりの制限もあります。体調の変化もあります。それらをふまえた上での平等に働ける社会になればいいです。ちなみに…男性は仕事の帰りが遅く、長時間労働が問題になっていますが（最近では女性もですかね）、働く女性は家族の中で、誰より早く起き、家事をし、フルタイムで働いて、残業をしなくても、家へ帰り座る時間もなく家事や子供のことをし、遅い帰りの旦那さんのご飯の後片付けをします。よっぽど長時間労働をしていると思います。
- 産休・育休制度の支援を強化してほしい。期間や時間を自由に選択できるような制度をつくってほしい。
- 女性にとっては、子育てと仕事の両立を図ることがモチベーションの向上につながるのではないと思う。子育てにも、仕事にも余裕をもって取り組めるような制度や環境を作っていただきたい。
- 同じ給料くらいの給料をもらって働いていても、どうしても家事・育児は妻の物という認識があり、自分から進んでしてくれない。あと、自分がどれだけ家事・育児のスキルがあるかわかっていない。できると思い込んでいる。（こういうところを変えることが出来る研修などをほとんどの男性が強制的にうけるようにできればいい）夫は結婚する前、家の雑事や家事を全くせず生活していたため、効率よく家事をしたり、自分から進んで家事をする習慣がない。子供のころから性別に関係なく、家事をするものだという家庭環境が大事だと思う。学校での教育もきっかけにはなりそう。
- 女性が活躍する場合は、会社員として働くことだけでなく、自営業で働く、起業するあるいは働かずとも、地域活動に参加する、家庭で子育てに専念するなど、いろいろな選択肢があって良いと考えます。大切なのは、どの選択肢も選ぶことが出来るということ。我が家の場合、私自身が時短を使いたくても経済的な不安が大きい。夫にも残業なしあるいは育児休暇を取得してもらいたくても、収入が減ることに不安がある…という面があります。また、保育料をもう少し安くしてもらえると家計の負担が減ります。
- 今のところ女性が活躍をしようとするとか何かをあきらめざるを得ない。選択の自由で人生を生きられない。
- 小規模ながらも子育てをしながら起業し、努力している人が周りにたくさんいます。そんな事業を金銭的、物理的にサポートしてくれる地域であってほしい。女性が活躍することで根気が遅れ、現在ではたくさんの女性が不妊治療をしている。労働面での改善を求めると共に、収入があるがために治療費の助成金が得られず大金を払っている現状を知ってほしい。そして、保険適用なり、改善が進まなければ“活躍する女性は不妊”になりやすいという悪循環から抜け出せないと思う。子育て支援の前に子供が出来なければ…と思う。そういった面でも支援は必要だと思います。「女性の活躍」か「不妊」か…どちらかをあきらめざるを得ないのが現実です。
- 子育てしている女性限定での雇用枠の充実。正社員で働いていても、妊娠した時点で上司や仲間からの評価は下がる。いくら妊娠・出産を経験してきた女性でも、自分の負担が増えると感じてしまう人もいて、若い人の妊娠に理解が得られない現場もある。女性がトップに立つ職場が増えたとしても理解がなければ長く働くことは難しいし、保育園に0歳

からいれても、呼び出しも多いため職場に申し訳なさを感じ、離職、パートの選択を迫られる時もある。2回の妊娠で、正社員で1人目妊娠→退職勧奨で離職。パートで2人目妊娠→契約更新なし。

- お仕事ご苦労様です！3世代同居率が高いためもあり、祖父母の昔の考えが抜けない（男性は働き、女性は家事）。その為、女性が働くことに対して理解してもらえない。つまり男性が偉いと思っている。夫は家事についても全くしません。母である私が、育児、家事、そして仕事をしている状況です。働きやすい職場なんて家にはありません。ただ、職場がとても理解があり、子供の具合が悪い時もすぐに帰してくれるのが恵まれています。また、仕事もやりがいがあります。男性の理解が問題だと思いますので、酒田をよりよくしてください。よろしくをお願いします。
- 「女のくせに」と思っている輩の排除、男女ともに！
- 仕事をしていても、子供が出来て産休もあまり取ることもできず、やめなければいけない状況になった。また、職場の中で、パワハラいじめをする人がたくさん見られる。私も実際されてきて悩まされてきたが、一番は職場内での人間関係、そして環境をよりよくし、のびのびと仕事ができるようにしていくこと。いじめる人は“やめさせる”または今後“どのようにしていくのか”“同じことにならないようにするにはどうしていくのか”はつきりさせていくべきだと思う。子育てが落ち着いたら就職活動するつもりだが、前と同様嫌がらせをされないかトラウマで不安な気持ちでいっぱいです。
- 様々な選択ができるような環境があれば良いと思う。結婚や出産をしたくなければキャリアアップでき、子供が欲しければ育てやすい環境があればいい。時間が選べるパートがあったり、子供がいる男性はもっと給料が高くていいと思う。
- 働けば働くほど損をする時勢となっていると感じる。女性は金銭に対してはシビアでもある上に、家計のやりくりで手がいっぱい。女性・男性の意識改善の前に、世帯取得がアップするための取り組みを市民、または県民に示すべきだと感じる。
- 今は夫婦ともに働いているが、義父母も高齢なので、義母が家のことをできなくなったら、義両親ともに介護が必要になったらと不安に感じる事が多くある。また、養子も迎えたいと考えているが、子育てと介護が一緒になるのではと思進めないでいる。
- 私は数年前から体調が悪く、子供を産んでからさらに悪くなり、働きたくても働けていません。医師から診断書をもらえる体調でもなく非常に肩身が狭いです。この地域は働いてない女性に対してとても厳しいです。なので、これから働くにしろ、何年も職から離れていて不安でたまりません。そういう女性にも働き口を相談できるような場がほしいです。
- 女性に限らず、個人の選択の尊重よりも社会における役割を果たすべきという押しつけの空気があり、その押し付けが当然のこととされているように感じます。また、社会全体に余裕がなく、労働条件が最低限である、時間外労働を強いられる等もよくある話です。社会の都合や同調圧力で人間が振り回されている現状に希望がないと思っています。
- 法的に決まっていること（育休・残業時間等）を知らない、または理解していない社長・上司がまだまだ多いと感じます。社労士さんが指導してもわかろうとしない社長の下で仕事をしています。女性活躍の前に、子育て・家事・仕事でへとへとです。私は子供はいませんが、子供＝お金・時間がなくなると思っているのととても産みたいとは思いません。子育てにお金がかからないように時間に融通させてくれるような環境になればもう少し活躍できるようになるのではないのでしょうか。
- 情報はいくらかでも自分で集めることが出来ると思いますが、必要なのは支援する施設だと思います。病児保育等の拡充を望みます。
- 現在仕事をしています。一人目出産時に育児のため就業時間を短くしてもらい、休日も見直してもらいました。就業時間としては働きやすい状態になりましたが、行う仕事内容は

変わらず、出産前よりも増えてしまいました。現在二人目を妊娠中のため、今後仕事を続けられないと判断し、二人目の出産を期に退職予定です。就業時間も大切ですが、仕事内容も一緒に見直してくれる会社が増えることを願っています。

- いくら働きたいと思っても、家族の都合で職を変えたり辞めざるを得ないのは、いつも女性。障害のある家族がいるならばなおさらのことです。市外からの転入ですが、酒田が暮らしやすいと思ったことは1度もありません。障害児を抱える友人が、市の日々雇用に申し込んでも、いつも決まった方しか採用されないとっていました。日々雇用で同じところに10年務めている方がいらっしゃるそうです。平等性に欠けませんか？働きたい女性を閉め出しているのは酒田市なのに、何をしたいのかわかりません。
- 女性が安心して子供を産み、育てられる環境・社会であってほしいと思います。不妊の治療を仕事と両立させることはとても大変なことでした。
- 給料が少なく保育園の料金が払えない。
- 活躍推進してくるのでしたら市役所ももっと便利に使えるように改革してください。仕事してるのに平日に手続きに来い、来ないなら手当出ませんよっていうのは…。月に1回とかでいいので日曜に各種手続きが出来る日をつくってほしいです。土日勤務ないのが役所の特権だとは思いますがね。どうかしてください。
- 女性同士のパワハラ問題についてクローズアップしてもらいたい。育休復帰後の職場環境について同じポジションに戻れるとは限らない為、出産に対して積極的になれない。保育園代が高い。無料制度は反対だが、もう少し下げてもらいたい。
- 孫疲れという言葉が出てきているように、近くにもおばあちゃんに頼れない現状があり、今後も放課後児童クラブなどが重要になってくる。
- 共働き世帯が増えていることや、共働きしなければならない環境（優乳が心配なため）えあることを60代以上、親世代に理解してもらいたい。活躍だけでなく、できないことがあっても大丈夫だと思えると気持ちの面で余裕ができる。制度の整備だけでなく、女性が楽しめるような飲食店や服屋があるといい。
- 男女の性別と仕事向きか家庭向きかの個性は別のものですが、今現在は男性は仕事、女性は家庭という観念が前提の会社組織が多いように感じます。また、基本的に男女ともに十分な経済力があるとは言えません。そのせいで家庭向きの男性が主夫になることに大きな壁があり、女性へ仕事・家事が一極集中していることが多いと思います。